特217
742

1

0000513000

0000513-000

特２１７－７４２

日本と支那

宇佐見兼丸・著

宇佐見兼丸

昭和２

AAB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

特217
742

日本と支那

宇佐見兼丸文集

第四卷

特217
742

目次

一、序　　説……（一）
二、鮮、滿、北支便り……（六）
三、支　那　概　觀……（二一）
四、支　那　の　經濟界……（三六）
五、わが國の人口と滿洲の資源……（四六）
六、滿州の產業と勞働狀態……（五三）
七、支那の親日學校と排日學校……（六三）
八、支　那　の　宗　敎……（七〇）

序說

その一

▽清朝末期に及び、内には支那帝國の綱紀弛廢し外には歐洲諸國の侵寇日に加はり、支那の態面は屢々傷けられ、物情騷然たる時を把へて、寄々革命の私語を交したのは、南方の排滿興漢派である。まづ廣東の孫文は一八九二年「興中會」と稱ぶ革命秘密結社を設け、頻りに亂して、その都度失敗した。湖南では黃興、宋教仁等のひきゐる「華興會」が擧兵しては失敗してゐた。江蘇、浙江方面では章炳麟、蔡元培、吳稚暉などの學者が「光復會」を組織して、言論、文章で叫び、陝西の于右任一派は直接行動に訴へて、清廷の大官を爆擊したりした。

▽一九〇五年、日本へ留學中の支那學生が奔走して、亡命中の孫文と、黃興とを握手させた。光復會の章炳麟がこれに參加し、多數留學生をひきゐて、張繼が走せ參じた。革命家の大同團結たる「中國同盟會」が成立したのはこの時だ。そして支那朝廷を塞外の蠻虜と言ひ、支那の共和政體、土地國有等の綱領を決定した。

▽その後、安徽巡撫の暗殺に成功した代りに、革命派の花と唱はれた秋瑾女史が斷頭臺の露と消えたり、北京で攝政王邸を爆破しようとして汪兆銘が捕へられたり、暴動、暗殺をくり返してゐる間に、遂に時は來た。一九一一年十月十日、黎元洪

氏を推して、武昌獨立を稱へ、氏を大元帥に、黄興を副元帥に頂き、二十年間の臥薪嘗膽の實が初めて結んだ。孫文は大急ぎで、歐米の旅から歸つて、臨時大總統になり、南京に革命政府を置き、秘密結社「中國同盟會」は大威張りで、この日から「政社中國同盟會」と看板を塗り換へた。

▽一九一二年一月一日、孫文は正式に就任したが直ちに辭して、南北和議を講じ、清廷退位を條件として、臨時大總統を袁世凱に讓り、黎元洪氏を送つて、臨時副總統とした。内閣も總理唐紹儀、交通施肇基が、準同盟會派である外、教育に蔡元培、工商に王正廷、農林に宋教仁、司法に王寵惠の諸氏を同盟會から割込ませたが、經驗淺い青年であるばかりでなく、内務、外務、財政、陸海軍など重要な椅子は、悉く北方の老練家に奪はれ、また、こゝ〳〵に袁世凱と合はず。南方派は總辭職して、吳景濂、谷鐘秀等の統一共和黨、伍廷芳、徐謙、許世英等の國民共進會、その他と合同し、袁世凱を政敵とする「國民黨」をつくりあげた。これ國民黨の名の初めである。

▽袁は一方の手で、國民黨を懐柔すると共に、他方の手で、その首領宋教仁を暗殺し、足をあげて國民黨系の都督、江西の李烈鈞、廣東の胡漢民、安徽の柏文蔚氏等を貶した。その眼は列强諸國に秋波を送つて、日、英、米、佛、獨の五ヶ國から二億五千萬元を借りだし、これを軍資として、一擧に國民黨を叩き潰したので、孫文、黄興、柏文蔚等袖を連ねて日本に亡命した。

▽同盟會系の人々が「中華革命黨」を造るころには、袁は洪憲皇帝と稱してゐた。一九一五年の袁の急死、黎總統、段内閣、張勳の復辟、馮代行總統、新國會の選んだ總統徐世昌、舊國會恢復で黎元洪の復活、と北方が目まぐるしく變る間に、南方も國民黨を復活させ、一九二四年には、黨の改

組を斷行して、中國共産黨員を抱擁入黨させた。

▽その秋第二奉直戰が起つて、直隷派に對抗するため、奉天派と、安福派と、國民黨との、三角同盟が成立し、直隷軍閥内でも、閥を牛耳る吳佩孚氏とよからぬ馮玉祥氏等、反旗をひるがへして、國民黨と稱するに至り、馮氏は直隷派政府にクーデターを敢行し、曹錕大總統を退かせ、更に民國革命以來、虚位を擁して帝號を稱し、宮城内に生活を續けてゐた宣統皇帝の稱號を剝奪して、一平民傅儀の資格で放逐した（廢帝は、今天津の日本租界に住んでゐる。最近の南北戰から、北方急迫とみた王國維氏が、廢帝に日本留學を、切に勸めたが、侍臣の容るゝ所とならず、慨然として北京北郊、萬壽山の昆明湖に身を投じて節に殉じたのはつい先日のことである。）奉、國兩軍閥支持のもとに、天下は安福派の段祺瑞、國民黨の孫文兩氏の上に來た、と南方派が喜こんだ甲斐もなく、一九二五年三月、孫文は北京に客死し、安福派は國民黨の政策を容れず、國民黨は左右兩派に分裂してお互に對手方の除名競走をした末、左派は廣東に歸つて、七月一日國民政府を組織した。

▽一九二六年一月一日から十九日まで、廣東に黨第二回全國代表大會を開いて、孫文の遺鉢を繼ぐことに決し、汪兆銘、蔣介石、胡漢民（現在南京政府の總理格）、譚平山、徐謙、柏文蔚、戴天仇、李大釗、李烈鈞、陳友仁、譚延闓（現在武漢政府の總理格）、宋子文、孫科（孫文の遺子で、現に武漢政府の交通部長）諸氏の外、孫文の未亡人宋慶齡、右派に刺殺された廖仲愷の夫人何香凝兩女史、その他を中央執行委員に選擧した。吳稚暉、蔡元培、王寵惠、李石曾氏等は中央監察委員に就任した。國民政府は王兆銘氏が主席委員になつた。帝國主義と、軍閥と、官僚と、輸入貿易業者と、土豪とを打倒し、被虐民族、被搾取階級と手を把り、革

命軍隊を養成し、政治を廉潔にし、國產工業を保護する、と宣言した。勞働組合、農民組合の保護助長が、その前後を通じて行はれたのはいふまでもない。

▽蔣介石氏は日本士官學校出身である。孫文が聯露政策を執るや、露國赤衛軍を見學して得る所あり一九二四年の國民黨第一回大會の決議として、軍官學校(今では中央軍事政治學校といふ)を興すに當つては、その校長となり、こんごの北伐軍には、その學校出身者が、中堅となつた。唐生智氏と結び、吳佩孚氏を叩き潰し、孫傳芳氏を追ひ、奉天軍、山東軍を黃河以北に壓迫したのが現狀だ。

▽左派の武漢派と、右派の南京派と、相鬪ふかと思へば、手を携へて北伐のことに從ひ、蔣氏の右傾を詈る武漢派(左右に分れて以來唐生智氏は武漢派)も、近ごろは事實上の執政官ボロヂン氏を追ふて、赤くないことを示そうとしてゐる。東に日本が出兵し、西の馮玉祥氏と、南の蔣介石氏が握手する間に、北の張作霖氏は大元帥になつた。突如として大咆哮、一時世界の耳を聾てさせた閻錫山氏は、眞中に坐つたまゝ、山西モンロー主義を捨てやうか、捨てまいか、と思案してゐるのが、今の狀態である。

▽卷中收むる文章は、草した時が古いために、時勢に合はぬ所が、多くあらう。許されたい。

(昭和二年七月一日記)

その二

▽支那の統計を見る。一九〇二年の支那政府の統計によると、直隸省の面積は十一萬六千方哩である。所が一九一三年ウイリアムの調査によると、同じ直隸省の面積は五萬九千方哩だ、卽ち半分だ。甘肅省の面積は、ウイリアムによれば八萬七千方哩だが、コルクホイン(一八九八年)によれば二十六萬方哩ある、殆ど一と三の比だ。四川省(川邊特別區を含む)について三者の統計を並べてみると、支那政府が二十一萬九千方哩、ウイリアムは十六萬七千方哩、コルクホインは十八萬方哩だ。本部十八省の面積を合計すると、政府が百九十萬方哩、ウイリアムが百三十萬方哩。

▽人口統計をみる。團匪の亂後、支那政府が列國に示した所によると、十八省合計が四億一千八百萬人、東三省が一千二百萬人、蒙古が二百六十萬人、新彊が百二十萬人、西藏、青海合計が六百四十萬人とある。然るにその後統計のできる度に數字が異ふ、勿論人口の增減は當然であるが、自然增減にしては少々激し過ぎる。たとへば、現に支那が使つてゐるといふ統計(國勢院統計局發表)によれば、西藏、青海を合せて二百萬人だ。前統計の三分の一に足らぬ。更に朝日年鑑の大正十六年版をみれば、西藏、青海合計僅かに七十六萬人。三分の一の、その又三分の一だ。

▽支那の統計があてにならぬことは、大凡こんなものだ。本書の數字は、わが外務當局、軍事當局、商業會議所、滿鐵、朝鮮總督府などのみでなく、新聞記者、教育家、宗教家などの支那に長年研究してゐる人や、更に支那の有力者にも聞いて、增減塩梅したものである。增減の手加減は素人である小生の專擅だから、多少危いかも知れぬ。

鮮、滿、北支便り

京大學生約八十名は、大正十五年八月十二日下關解纜、九月九日同港歸着、同學軍事教官長谷部大佐、同金子大尉及學生監室囑託山田法學士に引率されて、鮮、滿、北支に旅行し、晝は軍事、外交、經濟の研究、夜は軍隊の營舍に宿泊して困苦缺乏の生活を味ひながら、心身を練つた。

次に掲ぐる二十九の便りは、著者がこの學生團體と行を共にし、行くさきゞ〳〵から大阪朝日新聞に通信し、八月十五日から九月十二日に亙つて連載されたものである。

出發にさきだつて、次のやうな豫定が立てられてゐた。

▽八月十二日下關發、船中宿泊▽十三日釜山上陸、龍山(京城)歩兵七十八聯隊宿泊▽十四日京城滯在▽十五日平壤歩兵七十七聯隊宿泊▽十六日安東守備隊及新義州守備隊宿泊▽十七日安東滯在▽十八日奉天歩兵三十九聯隊第一大隊宿泊▽十九日奉天滯在▽二十日撫順炭鑛見學後、奉天へ歸つて滯在▽二十一日鞍山製鐵所を見學して後、遼陽へ引返して歩兵三十九聯隊宿泊▽二十二日遼陽滯在▽二十三日湯崗子溫泉につかつて、旅順歩兵六十三聯隊宿泊▽二十四日旅順滯在▽二十五日大連出港船中宿泊(長平丸)▽二十六日天津着、直ちに北京に入り、北京駐屯歩兵隊宿泊▽二十七日二十八日、二十九日、三十日北京滯在▽三十一日天津に歸り、天津駐屯歩兵隊宿泊▽九月一日、二日、天津滯在▽三日長平丸で天津を出港して▽四日大連着、大連關東陸軍倉庫宿泊▽五日、六日、大連滯在▽七日ばいかる丸で大連發▽八日航海▽九日下關歸着

第一信

十一日午後七時八分京都驛發の三等特急に乘るつもりが「座席賣切れです」と出札孃にポンと蹴られた、五日前から座席券を買つて置かなかつたのが第一の失策。

次の一、二等急行も呆と過ごして七時三十五分發の下關行に乘るべく、第二プラットに悠然と待つたが、時間が迫つてもサッパリ列車が姿を見せぬ、とみる、忽然として第三プラットにその列車が湧いて出た、驚いて跨線橋を駆け上り、あはてゝかけ下りた、これが第二の失敗。

列車が動きだしてから氣を落付けてみると、一行の姿がチョイ〳〵見える。失敗者は僕ばかりでないと罪のない人達を無理に失敗者にして、強ひて安心する。花田學生監等多數が、見送つて下さつたとのことだが、狼狽した僕が、そんなことに氣が付くはずがない。特急とこの列車と、出發は僅か三十分の差、この列車だつて大部分は急行だと思つてゐると、下關では四時間半の開きになつた、これが第三の違算。

一行は各々勝手に下關驛前「川卯」に集まることになつてゐる。(下關から)

第二信

一行八十名、引率者は長谷部大佐と金子大尉、學生監室からは山田法學士が世話係として附添つてゐる。稅關はタバコにスタンプを押捺しただけですんだ。鐵道省の連絡船德壽丸(三六〇〇トン)

は十二日午後十一時下關驛棧橋を離れた。三等室は內鮮聯合裸體習作展覽會である、男の褌一ッはいふまでもない、つゝましやかな御婦人なんていふものも、蒸してやりさへすれば、お腰までも外すものらしい。

十三日午前五時四十分右舷三十度後方から、赤金に燃ゆる太陽が出た。（連絡船から）

第三信

釜山へ上陸したのが十三日午前八時、二時間の自由行動となつて、龍頭山へ登り、府を一眸に收む。神功皇后や豐太閤や金比羅さんを祀つて本社とし、武內宿禰や加藤清正を祀つて攝社とする龍頭山神社では、由緒書を貰つても、版を押して貰つても「御志」を絕對に取らぬ、商賣化した內地の神社や寺院より、どんなに氣持がよいか知れぬ。（釜山から）

第四信

京大學生一行は朝鮮に渡つて以來大陸的なカアや、助役みたいな帽子の巡査を珍らしがつてばかりゐないで頼りに、內、鮮親善に努力した、列車の窓から野良に働く少年に手を振つたり、隣の箱の老人に菓子を贈つたり。

◇

所が新灘津驛と芙江驛との間で、とんだ親善をやつてのけた、他の箱に（我等一行は一箱借切つてゐる）鮮人の美少女二名を誰かゞ發見したのだ「美しいキヂベ（娘）がゐる」との報告を、血の氣のあまる連中何ぞ聞き逃すべき、宇治の何とかいふ煎餅を握らせたのを親善の手初めに（註にいはく決して誘惑の手初めではない）漸次歡を通じ「オショ」（遊びにいらつしやいな）とやうやく親善の本性を現し、躊躇する娘二人を「オソ〳〵」（早く〳〵）と急きたてゝ、たうとう我等の箱まで連れてきた、小鼻の穴をふくらませて、外交的手腕を自慢してゐる中は無事だつたが、一行の中に朝鮮通がゐて「この人達はキヂベぢやない、チョンガアだよ、着物をみたまへ、上衣と下衣が離れてゐないぢやないか」哀れ男の子だと判明すると一同異口同音にいはく「カーシーヨ、オソ〳〵」（自分の箱へ歸り給へ、早く。）

◇

下關を發つ時、花田學生監から出發の祝電がきて、特に「健康に注意されたし」と附言してあつた、果して下痢で一人、下關から落伍して大阪へ歸鄉した、釜山でも一人下痢したが京城へ强行する途でなほつた、その他元氣旺盛。

◇

對馬を越してから、五時四十分に水平線を出た太陽は、鳥致院驛を越してから、七時二十分に地平線に沒した。內地と朝鮮とは時差があるのだが便宜上同じ時間を使つてゐるから、時計をなほす必要はない。溫度は疾走中の列車の中で日中三十六度五。

◇

鳥致院驛から天安驛邊にかけて大水害のあとがある、一眸幾萬頃、一木一草を止めず、人家さへ押流されて潰されてゐる、自然の暴虐、慘又慘。

◇

日が暮れてから十時半龍山に着くまで、沿道鮮人の家に燈火を見ず。三日月かくれて後は只暗の世界。

◇

兵營では至つて親切、但し始めて兵舍に寢る學生等、窓外にすだく虫の音に、故鄉の妹の夢を、丸く結んだか否か。十四日朝七時起床。

（龍山から）

第五信

十四日は京城見物に費した。美しい景福宮には宏壯な朝鮮總督府が建つて、光化門は移轉すべく取毀つてゐる。德壽宮の大漢門は無事だが、その前には京城府廳が嚴然と建つた。昌德宮の「李王家博物館」は一定の入場料で開放されてゐる、內地でいふ博物館と、動物園と、植物園とを兼ねてゐる。祕苑も拜觀した。メーンスツリートの鐘路街、四條烏丸ともいふべき黃金町、賑かな本町、朝鮮銀行、南大門もみた。朝鮮神宮へは第一に參拜して、京城の大觀をほしいまゝにし「內地と變らぬ、京都のやうだ」と思つた。（京城から）

第六信

十五日——寺に六根色の旗の飜るをみる、けふは內地から來てゐる人達のお盆なのだ。鮮人は舊

曆の八月十五日にお盆をする。

どこの町へ行つても道の角、街路樹の下などでまくわ瓜を賣つてゐる、鮮人はそれを細かな實ぐるみ食つてゐる、ひどいのは皮ぐるみ食ふ。

京城から平壤までの間で田圃に下りた鶴をしば〳〵みた。朝鮮の烏は決して眞黑でない、黑白の斑である。牛が至る所、野原に放し飼ひにしてある。（平壤から）

第七信

京城を中心にして農作物は南北でガラット違ふ南は水田に米が大部分を占めてゐるに反して、北は高粱、粟、小豆等が多い。總督府が米の增殖計畫と共に養蠶の奬勵をしてゐるので、桑畑を、南北共にチョイ〳〵見る。畑の中に所々高い小屋があつて二、三の人が晝寢をしてゐる、農作物の番小屋であらうが、汚い家に對して、涼しい別莊のやうにみえる。

平壤の婦人は白い布を冠つてゐる、可愛いものだ。（平壤から）

第八信

平壤は戰史に名高い所である。文祿の役、小西行長はこゝまで攻略して進出した。日淸役には牡丹臺下の玄武門を原田重吉が破つたりした。日露役にも七星門でロシヤの斥候を義勇兵が擊破したりした。

平壤は妓生（キーサン）の本場である。三年科程の妓生學校には現に生徒が二百名ゐる。「私は第何期生よ」と士官學校出身者みたいなことをいふ。四年前の卒業生である朴月仙女史（十九）は美しい唇から、よい聲で國境節を歌つてくれた。彼女等は不見轉はせぬ。と仲居も運轉手も保證した。（牡丹臺から）

第九信

十六日は半分の四十名が新義州、他の四十名は安東縣に宿泊した。僅か鴨綠江一本ではあるが往復には稅關を通らねばならぬ、日本と外國だ。それが悲しいわけではあるまいが、昨夜（十五日夜）來の雨がやまぬ。渡鮮以來最初の雨で苦しんだが實は有難い雨ださうで、過般來新義州は水源涸渴して朝一時間半より供給がなかつたのが、この雨で急に水道の水が豐富になり、洗面の水も風呂を湧かす水もできたとの話だつた。難儀な雨を拜み邊境警備の辛苦を想ふた。もとへ返るが、平壤以北は再び水田稻作が多くなつた。（新義州から）

第十信

日、支の國境は鴨綠江の「流線」といふことになつてゐる、だから河床の都合で流れの中心が移動

するこ、國境がそれたけ變る譯である、現に鴨綠江中の或島の北を流れてゐた流線が南へ移つたために、その島の所屬について紛爭中だこいふ。その鴨綠江が氾濫しさうになつた、十七日は新義州安東方面も暴風豪雨だつたが、上流方面も激しかつたらしく、安東の支那人町は床上に浸水、運びだした家財は暴風に散らされ、豪雨に打たれ、面を蔽はしめた。大正十二年以來のこだこ、領事の話だつた。その中を悠々二頭立の馬車で視察した僕が、撲られなかつたのが不思議だ。

（安東から）

第十一信

内地こ朝鮮こには三十分位の時差があるはずだが便宜上一緒にしてゐる。そこで鴨綠江の橋を渡る時一度に一時間、時計の針を後へ戻さねばならぬ。我輩、西澤安東領事から晩餐に招かれたが、

招待狀には午後六時こしてある。然しそれは滿洲時間である、川一重の新義州の時計では七時に相當する。

呆やりの我輩は、一時間の勘定違ひを、金子商店に費すべく馬車を驅つた。金子こは支那人の妻になつてゐる日本婦人の名である、寶石や絹物の店で日本人對手の正札付の店である。（國境から）

第十二信

安奉線石橋子驛を越えるこ、西方に聳え立つ山の頂上に、お宮のやうなものがある。娘の市場である。化粧させて美しくした娘を連れて、こゝへ集まる。女房を求むる青年や老人が品さだめして人間こ値段この氣に入つたのを買つて行く。薄給者の女房ならば、普通百圓乃至二百圓位のものである。

線路の兩側は戰跡の記念碑ばかりである。十八日奉天着。一行元氣旺盛。（奉天から）

第十三信

奉天の新舊市街を馬車二十八臺を列ねて見物し更に蜿蜒數町、北邙數千の土饅頭を乘越え、轍を沒する泥濘を涉つて北陵に詣でた。歸途大變なここが起つた。十臺目位から以下糧秣廠の前で、奉天の憲兵上等兵に抑留されてしまつたのだ。多分「禁止煙火」に違反したのだらうこ、同胞救護のため、前の方の者は引返した。日本の曹長さん二人も驅けつけてくれた。何のここだ。十臺目の馭者が奉天兵から十二圓借りたまゝ返却せぬので、こゝで捕へたのを幸ひ、この場で返さねば通行させぬ、こ、公私混淆してゐるのだつた。馭者は勿論支那人である。

奉天票は今日四百六十圓だ。百五十圓で受取らなかつたこいふので、午前十一時、五人死刑になつた。

二十日。撫順で野天掘をみたり、一千二百三十四尺の大山坑へ入つたりして撫順驛へ歸るこ、紳士、淑女が行列して先頭の一學生に最敬禮してゐる。引率者の長谷部大佐や金子大尉には眼もくれず、その學生を畏る〳〵仰ぎ見てゐる。學生は愕いてキョロ〳〵するこ、整列者達はます〳〵その平民的なのに身ぶるひしつゝ恐縮する。聞けば同じ汽車に、東大生である天理教管長の中山正善君が乘込んだそうで、見送りの信者に間違へられたのだ。他の八十名は隨行や學友だこ思つたそうな。夜は一行全部吉田奉天總領事に招かれた。

（奉天から）

第十四信

日本の石炭を左右する撫順を二十日みた我等は二十一日には將來の日本の鐵の死命を制する鞍山

製鐵所をみた。軍事上、經濟上、大切な兩横綱だが滿鐵の利益の六割まで撫順で儲けるに反して、鞍山は一ヶ年に二百萬圓づつ滿鐵のふところを痛めてゐる。その鞍山では一千萬立方呎の瓦斯ができるが、自分の會社で使つたり、近くの街へ供給しても半分も費ひきれず、捨てゝも不衛生だから、何本も煙突を立てゝ、瓦斯を吹きだし、その煙突の先に火をつけて五、六百萬立方呎の瓦斯を燃やしてゐる、火焔數本天に冲し、勿體ないが壯觀である。（鞍山から）

第十五信

八月の下旬は橘大隊長の戰死した時である。二十二日一行は遼陽の郊外橘山に軍神の英靈を弔ふた。滿鐵の好意で、首山堡の近く、野中に列車を止めて貰つた。橘山には、第二軍の記念碑、橘大隊長、關屋聯隊長などの碑が、忘れ勿草に似た花に包まれて、朝霧の中で旭光に映えてゐる。こゝで白石中佐、眞野大尉から遼陽大會戰の話を聞いた。引率者長谷部大佐は、關屋聯隊長の女婿である。白石中佐は當時屍山血河の中を馳驅して勇戰した人である。一行の血は湧いた。夜は一部の者が長谷川第十師團長に招かれ、追懷談に花を咲かせた。（遼陽から）

第十五信

一行中に中村君といふ學生がある、沙河の戰ひで父を奪はれた。奉天滯在中、守備隊の好意で煙臺に案内して貰ひ、更に煙臺守備隊の軍曹の案内を得、戰跡を追ふて山野を跋渉する事六里、遂に完全に戰死の跡を發見した。中村君は喜んで泣いた、大地にシガミついて二十年前の父の血の香を吸ふた、俯仰低徊、追想數時。案内の軍曹さんも戎衣の袖をぬらした。遼陽附近は頻に馬賊がでる、その馬賊出沒する高粱の中を、詩吟高唱して散歩する第十師團の猛將連、長谷川師團長以下幕僚の集まつた所で、金子大尉がこの話をすると、皆髯に涙を傳はせてゐた。（遼陽から）

第十七信

旅順に赤痢患者が發生したため、旅順宿泊の豫定を變更し、遼陽を悠くりたつて、湯崗子溫泉で更に悠くりし、同溫泉の庭にある天然の湯の池で泳いだりし、その上金州で途中下車して、長谷部少尉が一番乘で、當時新聞に唄はれた南山見學。旅順では黴菌の追つかぬやう、二頭立の馬車を數十臺連ねて飛ばせ、二百三高地、松樹山、白玉山等、昔のまゝに殘る堡壘や塹壕に、二十年前の砲丸の破片や、防寒用の毛皮の斷片や、人の膏の泌みたのをみた。（旅順から）

第十八信

二十四日夜は赤痢の旅順を避けて、大連陸軍倉庫宿泊、倉庫といつたつて決して荷物と同居ではない、ごこの兵營より綺麗で、人の寢るやうに造つてある。

かくてこの旅行は日數において半分、旅程においては四分の三をすました。全員一名の病人を出さず、元氣旺盛。今二十五日、午前十時大連解纜の長平丸で、天津に向ふはずである。今朝密雲低く垂れ、風が強い。（二十五日朝、大連から）

第十九信

二十六日午前七時天津上陸。第一に、各國租界に比して、日本租界の汚いのに悲觀した。第二に大洋銀（標準貨）小洋銀及び銅貨（補助貨）各々の間の相場の變動と、その全體と日本金貨との相場の

面倒臭いのに、閉口した。第三にコレラの流行である、英國租界では英國の將校が罹病した。第四に今更ながら我國の勢力範圍を想ふ、貨幣も郵便も、鮮、滿、關東州までは日本のまゝで大威張だが、天津へ來てはカラ駄目だ。

支那人がトンボを手で捕へてゐる、食ふのださうだ「うまいか」ときけば「やるから食へ」といふ。

有難いことは、世人の知る通り滿洲も天津も煙草と酒の安いことである、煙草は燕印は一箱貝の一錢、キリンビールは三十錢だ。（天津から）

第二十信

國民軍が機關車を皆持つて逃げたので、北京では列車運轉に大支障を來してゐる、その上奉天軍の輸送などで、運轉系統は目茶だ。われ等の列車は只の十五分遲れただけで、二十七日午前十時半

北京に着いた。（外國の事だから皆二等切符を買つた）タッタ十五分、あまり正確すぎて出迎への人が間に合はなかつた。一時間や二時間は延着するものに定まつてゐるからだ。張學良の布告が至る所に、張つてある。奉天軍にはロシヤ人もゐる、汚い奉天兵の軍服を着て、婦人を伴ひ、支那兵とゴッチャに貨車に積まれて運ばれてゐる。

（北京から）

第二十一信

京綏鐵道は、目下直、魯の兵が渦卷いてゐる。ダイヤグラムなどあるはずがない。お剩けに昨二十七日には東園驛附近で二百餘名の乘客が死傷した、危險この上ない。しかしながら萬里の長城は天下の名所、これを見ぬ譯にはゆかぬ。長谷部大佐等の非常な努力と、張學良氏の絶大の好意とで辛くも今二十八日、われ等八十名のために、二輛を連結してくれることになつた。躍り上つて西直門驛へ未明に驅けつけると、九時ごろになつてやうやく乘車が許され、午後三時になつて危くも發車した。この箱も窓の外から屋根の上まで兵隊さんが鈴なり、只われ等の箱のみ將校以下數名の護衛付で、悠々と腰かけ得られた。（京綏鐵道から）

第二十二信

十時間待つて、二十八日午後三時、危くも西直門驛を發車したわが軍用列車は、タッタ十五里の青龍橋驛へ、驚くべし夜の九時半に到着した。山峽の孤驛、殊に軍事の際、寒夜と空腹に報ひらるゝものは、只銃口と劍尖のみである。臥待月を起きて待ち、夜十一時半寒風を冒して「萬里の長城」登攀を決行した。夜道を間違へて山を三ッ乘越え身體中茨に刺されて機械體操で長城に嚙りついた時は、わづかに二十名だつた。下弦の月、中空にかゝり「萬里の長城」は夢の浮橋の如く、山巓から溪谷へ、谷から又頂きへ、蜿々として行方も知らず續いてゐる、所々に立つ城樓は廢墟のやうだ。（萬里の長城から）

第二十三信

二十名の中七名は更に長城を歩き廻るべく後に殘り、二十九日午前三時蒙古通ひの大道をみつけて、谷へおりた。突如眼の前へ現れたのは駱駝隊である、南口から張河口へ食糧を運搬する直魯軍の夜行隊である、蜿々として續く駱駝が實に六十六頭、護衛の兵士からしば〳〵誰何され、銃口をつきつけられ、われ等七名、千里の異鄕に骨を曝すことかと思つた。（八達領から）

第二十四信

二十九日午前九時十五分青龍橋驛を出發し得た

ので大喜びでゐるこ、南口驛で六時間待たされ、ヤケで戰跡を視察した。藥莢がおちてゐる、鹿砦、鐵條網（電流が通じてゐる）塹壕こ國民軍のかまへも嚴重なものである。吳俊陞が五百里の大迂回をやらなかつたら、仲々退却しなかつたらうこ思ふ。午後九時十五分西直門驛へ歸着した。往復三十里の旅にまる〳〵二日かゝつた譯である。所が九時を過ぎてゐるので、城門は固く閉ぢ、多數の兵士が守つて明けてくれぬ。（北京から）

第二十五信

孔子廟、國子監は固くなつて見た。ラマ寺で猥雜なものもみた。北海の舟遊、萬壽山の豪華に西太后の玉の輿も考へてみた。天壇の廣さには驚かぬが、宮城内の御物のスバラシさには膽玉をデングリ返した。支那風呂の氣持よさに陶然こして狹斜の巷に迷ひ込んでみた、校書の外に先生（センション）こ尊敬される音樂家に迎ひ狀を書き、胡弓こ月琴をキーキーこやつて貰つた、歌ひ女は下婢をつれて主從共に客席に侍つてゐる、所望につれて歌つたのが「孟母斷機」である、倫理の講義のつもりで固くなつてゐるこ第二が「諸葛孔明空城の計」だ、最敬禮をして退却した。但し一行の學生の父兄諸氏に申します、學生諸君は斷じて、こんな所へはまゐりません、怪しからぬ奴は僕だけです。

（斜街から）

第二十六信

學生一同、一日には高田支那駐屯軍司令官に請待され、二日には北清事變の犧牲者を美しい共同墓地に弔ひ、英租界の黎元洪氏を訪問した。氏はなほ八十三日間大統領の任期を殘してゐる。黎氏は若い時、日本の近衛師團にゐたことがあり、氏が中尉で、高田司令官は當時少尉だつた話や、三年前京大を訪問した追懷談などをして愛嬌をふりまき、又黎氏の令息は學習院にゐた當時を語つて一同に茶菓の饗應や、庭園の案内などをしてくれた。その美しい庭宅をみるにつけても、日本租界に佗住居の宣統廢帝を思ふ。廢帝は長谷部大佐を通じて、われ等一行に「よろしく」こいはれた。廢帝の邸の塀には鐵條網が引いてある、國民軍がゐた當時は小さな邸の中で極度に胸を痛めてゐられたこいふ。（天津から）

第二十七信

船が渤海の中程へくるこいろ〳〵な可愛い小鳥が、甲板に飛びこんでくる。羽は疲れきつて、人が追つても、逃げる力もない。おゝ可愛らしい小鳥よ、一笠一杖の準備もなく、二百マイルの渤海へ眞直ぐに飛び出した冒險ずきの小鳥よ、中途でもし、船が見つからなかつたら、お前どうするの？こんどこんな冒險をする前には、きつこ、わたしに相談しておくれ。なぜゝ優しく慰めてやる娘さんなんかこの船には乘つてゐないので、大分捕へられた。

大連へは四日午前四時に着いたが、コレラ流行指定地の天津から來たこいふので、檢疫に十時間を空費し、午後二時やうやく上陸した。勿論われ等の一行には保菌者なんか一人もなかつた。

（大連から）

第二十八信

滿鐵囑託高柳中將の支那に關する講演をきいたり、滿蒙文化協會で本を買つたり、三泰油房で身に一絲をまこはず働く苦力をみたり、埠頭事務所の屋上から、東洋一の大棧橋に集まる一ヶ師團ほどの華工（苦力の優遇語）をみたり、地質調査所で二百年前の蓮の實が最近發芽したのに感心した

り、中央試驗所で豆粕を食糧にする研究中だといふ話や、關西の天ぷらの油は大抵この豆粕を絞つた油だといふ話を聞いたり、星ヶ浦の大和ホテルで滿鐵から茶菓の饗應をうけたり、大連も一通り見學したので、七日午前十時發のばいかる丸で下關に向けて發つことになつた。既に泰華樓で支那料理の盃をあけて學生らしい淸い解散會もすました。六日の見學が豪雨雷鳴を衝いて決行されたに反し、七日の解纜日は洗はれたアカシヤの葉に美しい朝日が映えてゐる。（大連埠頭から）

第二十九信

何しろ二百二十日だ、わがバイカル丸は屢々雷鳴豪雨にあひ、濃霧に一すさきを閉され、警笛を鳴らしながら航海を續けて、九日午前十一時關門に入港した。これよりさき船の食堂で最後のコンパをやつて別盃を汲み、下關入港と共にこの旅行團は解散した。或は海路をとつて神戸に續航し、或は陸路によつて汽車に搭じた。この旅行中大連で一名の病人を出したことは殘念だつたが、八十名の多數が、一ヶ月にわたつて、三千五百哩の長途を旅行し、その間安東の洪水、旅順の赤痢、大連、天津のコレラ、八達嶺の夜行登山など、危ないことにブツカリながら、僅か一名の落伍者で濟んだことは、寧ろ奇蹟的に良好な衛生狀態だつたと思ふ。

最後に僕個人として、引率者の長谷部、金子、山田三氏及び八十名の學生諸君に感謝します。

（下關から）

支那概觀

はしがき

外交上我國現下の最大問題は、支那の問題である。內閣更迭、銀行の破綻、モラトリアムと、國內に重大事件頻發のため、外交上のことは、暫く國民の耳目から遠ざかつてゐたが「田中內閣成立」の聲は、早くも安國軍に歡迎され、國民軍に警戒されてゐるといふ。內には經濟界の安定、外には對支那問題、この二ッは田中內閣に課せられた劈頭の試驗問題である。私は茲に支那のことを、大根の尻ッ尾の端ほど述べたいと思ふ。

長江の騷亂

支那現下の問題といへば、長江沿岸の擾亂暴行である。南京では帝國の代表である領事に向つて發砲し、守備中の帝國軍人の武裝を解除し、在留邦人は最後の一物まで掠奪された。その掠奪が如何に激しかつたかは、痰の溢れる痰壺、屎尿の滿ちた便器まで浚へ去つたといふ一事實によつても想像し得るであらう。暴徒の過ぐる所、邦人はシヤツも殘さず、猿又も餘さず、婦人の腰卷さへも奪はれた、某宿屋の亭主は身に一絲も纏はぬ素ッ裸にされたが、まだ仁木彈正の刺靑（いれずみ）だけ殘し、貧婪厭くことを知らぬ支那兵をして友仙のやうな皮膚の模樣に垂涎せしめたといふ。漢口では產褥の日本婦人が、街路に引きづり出されて毆り殺され

た。上海でさへ婦人凌辱の話がある。併しこれ等は新聞に詳報されてゐるし、詳報されないやうなことは、茲にも書くべきではあるまいからやめる。

我國の損害

近頃勞働爭議や、勞銀の騰貴に惱まされた日本の資本家や企業家は、安くて豐富な支那の勞力を利用する事を考へ、殊に支那を第一のお得意樣とする紡績業は、運賃節約の一石二鳥的名案として盛んに長江沿岸に紡績工場を建てた。その他長年に亙る邦人が中部支那發展の集積は、動亂發生當時に於て、長江沿岸在留邦人三萬人、わが投資總額三億圓に上つた。こんどの動亂で三萬人の根據と三億圓の財產とは共に殆どヒックリ返されてしまふであらうといはれる。

英米の損害

英國の投資は隨分大きい樣に言はれてきたが、消息通は「英國投資は近頃では日本と大差あるまい」といつてゐる。米國は一億圓前後だ。從つて全滅するとすれば、日、英、各三億圓。米一億圓の損害を被るわけである。

在支那外人

支那の動亂によつて脅かされる生命、身體の危險に至つては、數の上から見て、その大なること日本は全然他國の比ではない。支那にある英人の總數僅か一萬五千人、米人に至つては一萬人に過ぎぬ、これに對して日本人は約二十五萬人居るであらう。尤もその中、約二十萬人は滿洲にゐる(この外滿洲には朝鮮人が百萬人位ゐる)が、とにかく、この總數からみても、長江沿岸の英、米人の數は知るべきのみだ。日本人に次で多いのは在支露人で、その數八萬人といふ。

米人は既に長江沿岸を引上げ、北支那からも撤退しつゝある。おかしいのは宣教師が布教打切を宣言して引上げたことだ、こんな人心動搖の時こそ、死生の間に身を曝す時こそ、宗教家の必要があるやうに思ふが、アメリカのゴットは、宣教師の死んだ時、天國の一部を與へないと見えて、あはれ聖なる使徒は、罪にうめく人々を捨てゝ自己一身の安全のために逃げてしまつた。

英人中には最後まで引上げ得ない者が二千人ほどある、それは港務署員である、港務が殆ど英人の手中にあるためである。

引上げ得ない者は日本人にだつてある、しかもその數は四千人乃至五千人に上ると聞いて感心したら、貧乏で引上げ費がないのだといふ。長江沿岸の邦人三萬人の中、上海に二萬人ゐる、その二萬人のうち、四五千人は極貧で、長崎までの船賃さへないのだ。

排外の遠因

支那の排外運動も久しいものだが、その遠因の有力な一は一八四〇年の亞片戰爭である、亞片戰爭の結果結んだ南京條約である。最惠國約款によつて漸次各國がこれに均霑し、今日均霑しない國は、自から條約を蹂躙したロシア、戰敗國のドイツ、オーストリア(たとへ兵士の代りに苦力を送つたにした所で、形式的に支那は世界大戰の戰勝國であつた)新興國のチエッコスロヴァキア、ポーランドなどに過ぎぬ。

この南京條約が、今日支那を律する列國の規矩準繩となり、支那人を憤慨させる所謂不平等條約となつてゐる。不平等といふが、初め支那人の考へでは、外國人を不平等に扱つたつもりだつたらしい、治外法權といつても、「中華のお役人は洋鬼の裁判などしてやらぬのだ」といふ意氣込みだつ

たらしい、洋鬼を差別待遇したつもりで高くこまつてゐたのだ、それが近頃差別されてゐるのは夫子自身であることに氣がついたのだ、華人自身が不平等に扱はれてゐることが判つたのだ。

鎖國だつた支那に「どこの隅でも可いから商賣をさせてくれ」と外人が僻村に船をつけたのが租界の初めである。一寒村を上海（英國が上海租界を設定したのは一八六〇年）といふ大阪ほどの大市街に仕上げたのは外國人の商賣のお蔭だが、金を見て集まつた支那人によつて、高厦陋巷に櫛比し、八幡の籔知らずみたいな露路が續き、上海は暴民の神出鬼沒には屈强にできてゐる。現に山東兵遁走の際、英國軍がタンクを掠奪された、といふ笑話がある、英國軍が如何に月給目當ての雇兵にした所で、潰走する敗兵にタンクを奪はれたとあつては餘り腰拔け加減がひどすぎるが、實は暴民を追かけたのだつた、腰拔でなくて頗る勇敢だつた、勇敢すぎて露路の奥まで追かけたのが猪突だつた、廻れ右ができなくてマゴ〳〵してゐる所を窮鼠に逆襲されてヤラれたのだ。但し英兵は增援を得て、一度奪はれたタンクを奪還したことを英國の名譽のため、申添へるが、申添へた所で上海の露路が大通りになる譯でなく、無賴漢の巢窟が王侯の宮殿になる譯でもないから、わが陸戰隊將卒の警備勤務は並大抵ではないと思ふ。

治外法權は屬人的なものが、遂には屬物的に進み、支那の稅關は支那人の自由にならぬやうになつたため、法權回收と共に關稅自治の叫びとなつたが、更に支那は他國に內水航行權を與へてゐる。外國艦船が如何なる內水に乘りこんできても文句が言へないのだ、汪洋海の如き揚子江あたりはまだよい、二千噸の船が通れば河水が兩岸にあふれる白河の如きまで、大威張りで外國艦隊が、フンゾリ返つて煙を吐き散らしては、支那人たるもの癪にさはる筈である。南方の思想に共鳴するこ否こを問はず、排外の風潮上下に瀰漫するは誠にやむを得ぬことであらう。

日本の同情

日本も條約改正までは同じやうな狀態だつた、生麥事件を寧ろ痛快に思ふ日本人は、身につまされて支那の國權回復運動に同情し、列國に先んじて、治外法權撤廢にも、關稅自治にも贊成した。治外法權を撤廢すれば、支那の有力者、財產家は匿れ場所が無くなつて反て困るであらうと思ひながらも「國民的要望」を尊重して、原則として贊成した。けれども日清戰爭以來、支那人の日本に對する怨恨は深く大きい。日清、日露、日獨戰の總勘定である二十一ヶ條によつて、その怨みは頂點に達し、その熱は容易に冷めず、現に天津南開大學の如く、二十一ヶ條條約締結當時の寫眞を圖書閲覽室に掲げて、日常排日思想を培つてゐるのもすくなくない。況んや國民軍はロシアが後援してゐる、ロシアは國家的に言へば日露の役、思想的に言へば白軍後援で、日本に含みこそすれ好意を持つ筈はない。その不凍港に對する垂涎は、ツアーと、ケレンスキーと、レーニンとによつて異なることなく、バルチック海と、黑海とを蓋する英國、日本海と渤海とを蔽ふ日本に强い憎惡反感、むしろ敵意を持つべきは當然だと思ふ。殊にロシアからは君民一致、金甌無缺のわが國體は最も注視の的になるであらう。「排外」を有力な一の大旗として、高く揭ぐる國民軍に、このロシアがついてゐるのだ。わが國が南軍を過信したのは失敗だつたに相異ない。

南軍の秩序

南軍には秩序がある、とは相當の支那研究家か

ら言はれた言葉だが、何しろ南軍が昨年七月廣東を出發する時には僅か五、六萬だつた軍隊が本年の三月には五、六十萬になつてゐる、僅か八ヶ月間に十倍の增加だ。近頃軍事教練だとか、青年訓練とかを喧ましく言ふ日本でさえ、尙且一ヶ年半の軍隊教育を施さなければ一人前の兵隊さんが出來ないではないか。タツタ八ヶ月間に、しかも戰爭しつゝ、前進しつゝ、如何にして五十萬の兵を教育することができやう。昨日の馬賊、今日の軍隊たることは、支那では日常茶飯事である。南軍と雖も支那の軍隊だ、彼等に帝國主義だの三民主義だのゝ區別が判ると思はれぬ、もし解ると すれば、共產主義を履き違へて、掠奪を權利化する位のものであらう。

大きな支那

支那はゲジ〳〵みたいな感じがすると共に、また親しむべき大人の風格を備へてゐると思はれる。支那はそれだけ大國なのだ、一ッの鑄型へ入れることができぬほど、時間的に古い歷史をもち、空間的に廣い領土と多種多樣の國民をもつてゐるのだ。茫洋たる五千年の歷史、廣漠四百餘州、大黑柱も朽ちかゝつてゐるが、元來屋敷が廣すぎる。支那本部だけで十八省、これに滿洲の三省、內外蒙古、新疆、青海、西藏を加へて、廣袤實に四百三十萬方哩、日本內地の三十倍ある。人口四億、五族共和と稱して五色の旗を制定したが迚も五族や六族でなく、人種や言葉の複雜なこと三色や四色の言葉を覺えてもサツパリ奧地は旅行ができぬのでもわかる。廣すぎて支那人自身が出入のできぬ支那領土は四邊皆然りで、西藏は英國が固く封鎖して、何人と雖も犯さしめず、外蒙はロシアの支配下にあり、滿洲や內蒙も日本の勢力を無視する譯にゆくまい。併し假りに、邊彊の總

てを拋棄し、本部だけを殘すとしても、百五十萬方哩ある、人口に至つては僅々三千萬人を減ずるのみだ。西藏と青海とを併せると四十六萬方哩、すなはち日本內地の三倍の面積があるが、人口に至つては僅々七十六萬人を出でず、京都市の人口と大差ない。本部を除いては最も人口稠密なのは滿洲で、三省合せて面積日本內地の二倍半、東部內蒙古を加ふれば三倍、人口は兩者合計二千八百萬人。人口の增殖率と稠密度は所によるが、山東の如きは白、和にも讓るまい。

支那の軍隊

過般の暴行掠奪者は、軍隊と、勞働者と、無賴漢とである。今後警戒の參考に三者の數字を見る。支那の軍隊は、比較的秩序のあつた當時、すなはち、北に張、南に蔣、東に孫、西に吳が頑ばつてゐた當時に於て、陸軍七十二ヶ師團、百二ヶ混成旅、二十一ヶ混成聯隊、二十一ヶ騎兵旅團、飛行機百六十臺といはれてゐた。飛行機の數が馬鹿に多いやうだが、張馮の戰爭當時にも、南口あたりでズラリと幾列にも並んだタンクを見て僕も驚いたほどだ、支那だつて傘さして戰爭ばかりしてゐるものとも限るまい。張が某國の支持をうけ、孫、吳が英米の援けをかり、蔣、馮がロシアの力に賴つて來たことは、世人周知のところだ。蔣以外に日本の將校が、顧問、參謀として附いてゐることも誰でも知つてゐるが面白いと思ふ。

日本人顧問

北京政府には坂西中將、高田砲兵中佐、張作霖には濱面中將、松井陸軍少將、政治顧問として代議士の町野大佐、御曹子張學良には儀我步兵少佐、張作霖麾下の吳俊陞には是永騎兵中佐、奉天の兵工廠には、佐藤砲兵大佐、明石砲兵大佐、松井砲

兵中佐、山内技師、張宗昌には小野中佐外數名、李景林には濱本、酒井兩少兵少佐、孫傳芳には岡林少兵中佐外數名、吳佩孚には坂西海軍大佐外數名、馮玉祥にさえ松室少佐外數名が顧問として附いてゐる。今日では多少この顔ぶれが變つたかも知れぬが、軍閥と軍閥とが戰爭する時は、戰略の方面からみれば、日本人同志の戰爭とも言ひ得べく、支那兵を使つて、日本の將校が、生きた大演習をしてゐるやうなものである。少佐位の人が二ケ師團、三ケ師團の兵を叱咤し、中原の野に天下の覇を爭ふのだから、迚も內地で味ひ得ぬ愉快味があるらしい。奉天軍に屬するわが某中佐が約二萬の大兵を率ひ、バインタラから蒙古の砂漠を眞一文字に橫ぎり、多倫(ドロン)のかなた、馮軍の側背を衝いて、國民軍を全滅せしめた奇襲などは、その壯その快、到底內地の大演習では味ひ得ぬ雄大さであらう。序だが、支那の軍隊中にはロシア人も雇はれてゐる、北伐軍を指揮してゐる幹部ばかりではない、安國軍の兵卒中にセミヨノフの殘黨が雇はれてゐるのだ。ロシアの服裝をしてゐるのもあれば、支那正規兵の制服を着てゐるのもある、あきれたのは女房同伴で戰線へゆくことだ。露兵が塹壕へ女房を呼寄せることはかねて聞いてゐたが支那まで出稼ぎの戰爭に女房携帶とは、夫婦仲のよさより、これを許した支那軍隊の幹部に感心する。そして獨身の支那兵と雜居させて、よく納まることだと心配したことだ。

支那勞働者

暴行掠奪の一分子勞働者の數を、失禮ながら算へると、支那の工場勞働者百五十萬、一般勞働者五百萬、その中組織勞働者三十萬といふ。ひるがへつてわが日本は、工業勞働者二百萬、鑛業勞働者三十萬、その他を合せ四百二十萬、その中、組織勞働者二十萬人だ。四億人と六千萬人の割合からみれば、支那の餘りに少いこと、やがて產業の發達せぬことを語るものであらう。支那勞働者のうち、最も多いのは建築の六十萬、運搬夫の五十萬、鑛山の四十二萬、驚くべきは人力車夫の二十萬だ。これを日本にみれば、近時自動車に壓迫されて、遊覽都市の京都でさへ、府下の人力車の合計僅か五百臺、全國を合しても恐らく一萬臺を出でまい。支那に遊ぶもの、俥屋の押賣りに惱まされたら、二十萬臺の一部だと思ふべきだ。事實支那の都市で、俥屋と宿引の多いことは異國の客の最初に驚かされる所である。

近來、南方の勢力增大と共に、勞働者の組織統制急激に進みつゝあるといふが、盜棒組合や破落漢組合を以て、直ちに組織勞働者とはいはれまい。

無賴漢の數

登錄の方法がないから明にし得ないが、上海だけで無賴漢の數三十萬に上るといふ、その他類推すべきであらう。產業發達せず、勞力消化の途がないのに、人口のみ徒らに增えては無職の徒の增加は自然の勢である。需給一致せず、勞力は供給過多を通りすぎてゐるから、勞銀の低落も底拔けで、高きも七十錢を過ぎず、安いのは七錢、八錢鑛業でさへ十錢といふのがある。大豆は世界產額の八割を支那で產するといひ、支那の七割は滿洲で產出するといふ、從て滿洲の油房(ゆぼう)の數は六百に上るが、その油房で働く苦力(クリー)は、全裸體の不愉快の仕事で、賃銀僅か四拾錢だ。撫順炭坑には日本人三千人、支那人四萬四千人が働いてゐるが、支那人は七十錢の勞銀が飛切り上等の高價だといふので、就職希望者山東から押寄せ、當局者をして選擇に迷はしめるほどだ。撫順の食料、會社で貯ふのは、一日十一錢、一ヶ月の室代煉瓦建で一圓

衣服の代を差引いても、一日五十餘錢は餘る譯だ。飲む、賭つ、買ふ、の三道樂を勘定に入れても、一日平均二十九錢の貯金をしてゐる者があつて、三年働けば三百圓の貯蓄ができる。故郷に錦を飾つて百圓で女房を買ひ、あとの二百圓で三年は遊んで食ひ得るといふ。一家族の生活費、一ケ月六圓ほどだといふから、年に七十二圓、二百圓あれば三年坐食できるわけだ。

タバコ一箱一錢、キリンビール三十錢、ロースの牛肉百目三十錢、物價も安いが、人が多すぎては安い仕事も容易に得られず、收入無く、腹が空けば無賴の徒となるのも止むを得ぬことかも知れぬ。武士は食はねど高楊子とは、日本のことだ、支那では楊子では腹がふくれぬさうで、負け惜しみの道德も日本ほど發達せず、俥に乘れば、終始一貫して酒代をネダリ、盜んでも返却すればもと〳〵だと考へる風がある。

一人前の女房は百圓乃至二百圓ほどするが、十二、三歳の小娘ならば、十五、六圓で買ひ得る、女中に使つたら安あがりだが、信用のできぬのが瓦にキズらしい。親も子を賣つて怪しまず、子も盜んで怪しまず、一錢のパンを買ふにも籤を引くほど賭博ずきの支那人だ。無賴漢ができるには屈强の條件を備へてゐるではないか。

妻帶の困難

軍隊と、勞働者と、無賴漢とが、一團となつて掠奪暴行をしたといふのだが、更に注意を要する一事實は一夫多妻主義である。妻の數は直ちに地位と、財産との標識となるために、高位高官や、金持富豪は競つて多數の夫人を持つ。十三、四歳に至れば第一夫人を娶る。甚しいのは男兒三歳か四歳に至れば、既に娶る、お嫁さんとは名ばかりで實は子守である、富豪が幼兒のために貧しい家から聰明な娘を貰つて嫁とし、幼兒の子守をさせるのである、子供を育てることは肉親と雖も困難とする所である、他人の子守に滿足に育て得る筈はない、併し嫁とし妻となれば、一生涯の婚だから命にかけても大切に育てる、恐らく母親以上の熱心を以て育てるであらう。婚殿は幼兒だが、嫁御寮は十五、六歳から十七、八歳の羞しい年頃である、夫が十二、三歳になる頃には妻は既に二十五、六歳、爛熟した肉體をもつて日夜幼い夫に接するのである、少年が早熟になるのは必然の勢ひである。併し少年も物心つき、識別の能力ができれば母親のやうな女房に嫌氣がさすのも亦止むを得ぬことで、茲に第二夫人を買ふ順序となり、第三夫人を娶るの仕儀に立至るのである。かくして一方富豪や高官が女房買占をやる結果は、地方貧乏人の女房難となつて現れる。問題は茲だ、姑娘城(クーニヤンジヤウ)へ女一人買出しに出かけても、苦力の女房でも百圓位はする。ゾラリと市場に並んだ女の數が如何に多からうと、金がなければ指を咬へてゐる外はない、百圓貯まらなければ、一生涯獨身である。申しにくい事だが、切破つまつて驢馬(ラバ)の牝で間にあはすのである。間にあはす尾籠猥雜な狀景が珍らしいといふので、苦力に一圓銀貨一ケを與へ、白晝青天のもとカメラに收めて歸る人さへある。驢馬といふのは普通の馬と驢馬(ロバ)との混血兒だが、仔を生まぬのを原則としてゐる、いや絶對に生まぬものだと言はれてゐた、所が近頃專門家の研究によつて、驢馬も立派に仔を生むことが證明された、生むのがあたりまへだといふことになつた。それが生まぬのは人間が姦するからだ、といふことが判つた。何故好んで驢馬を姦するかと言へば手近い所で間に合ふからだが、殊に性慾の滿足上人間に似たいろ〳〵の點があるからだといふ。これほど支那の貧乏な男はある方面に餓えてゐるの

である、そして前述のやうに浮浪無賴の徒が多いのである。これが事あるごとに經濟的には掠奪となり、婦人に對しては强姦となるのであらうと思ふ。尤も外國人に對する場合は自分より優越した人種を犯す特別な愉快もあらうし、西洋人に對しては或種の迷信があつて男子まで鷄姦したこともある。

日支の貿易

こんな厄介な國とはお隣りづきあひもやめにして、一切緣をきればよささうなものだが、情ないことには四億の國民は、わが國にとつて誠にありがたいお得意さまである。無智蒙昧な輩が多く、工業の發達せぬことは、反てわが製品を賣り込むに屈强の狀態かも知れぬ。原料を買ひ、精製品を賣らねばならぬわが國是に合する狀態かも知れぬ。

わが國の貿易中、對支貿易は、全輸出額の四分の一弱を占め、全輸入額の約六分の一を占めてゐる。支那の方面から見ても、支那の貿易中、全額の四分の一は日本が占め、各國中最高位にある。最近の統計で、日支間輸出入共に四億を越えてゐるが、日本からの輸出品は、綿織物を最大とし、製糖、紙類、機械類など、加工品、精製品が多く日本への輸入品は、油糟、大豆を最大とし、棉その他原料、粗製品が多い。かう見ても、加工工業を盛んにしやうとする日本にとつては、喧嘩別れのできぬお得意さまである。但しお得意さまだつて踏みつけられて、泣寢入らねばならぬといふ理窟はなく、仇討を許さぬ國内でも、差押へといふ債權保護の方法があり、横ッ面を毆りに來れば、逆に撲り飛ばしてやる正當防衛や、緊急狀態の便法もある。右の頰を打たれて左の頰まで出した所で、あまり效果のないことは、神さまに忠實な筈の宣教師が眞先きに尻に帆かけたのをみてもわかる。

支那の教育

教育の統計をみることも、現在の教育普及程度を察し、將來の支那をトする材料にならうかと、一瞥を加へる。十年前三百萬人だつた小學校兒童の數が、今日五百八十萬人に殖えた、といへば著しい進歩だが、わが國内地の九百萬人に比すればその少いのに驚くであらう、四億の人口に對して五百八十萬人、六千萬の人口に對して九百萬人、算盤を彈かずともその率の差の激しさは分明であらう。支那の小學校數十七萬校、日本内地の小學校數二萬五千校、これは數の上からみれば、人口の率と略一致するが、何しろ日本で立派なものはポストと小學校だと西洋人から言はれるほど、わが國の小學校が立派であるに反して、支那には棟割長屋みたいな學校がある。支那の小學校は、男生のを「國民學校」と稱して四ヶ年、その上に「高等小學校」が二ヶ年ある、女生の方は「女學校」と稱し、これを分つて、國民科四ヶ年、高等小學科二ヶ年としてゐる。男生の國民學校、女生の國民科が義務教育だが、そんな義務に從ふより、男の子なら苦力、女の子なら賣る方が儲かるから、餘り通學させぬらしい。事實十二、三歲の男兒が大人に交つて人力車を曳いてゐる、痛々しくて乘つてをれぬが、御當人平氣で大の男に負けぬやう走る。

日本は團匪賠償金七千萬圓、山東の賠償金四千萬圓を、共に擧げて、對支文化事業に投じ、その教育に協力してゐる。現に今日、支那の大學と專門學校の總數百二十五校、これを日本の、新大學令に據る大學三十七校、專門學校、高等學校約百四十校、合計約百八十校に比すればかなりの成績のやうに見ゆるが、一度、學生數に眼を轉ずれば

男學生の數三萬四千人、女學生に至つては八百五十人に過ぎぬ、わが國の高等學校以上の學生十萬人に比すれば、寥々たるものだ。況んや支那の大學はわが中學程度、或は高等學校程度をいでぬ。日本における中等程度以上の學校二萬、學生々徒二百萬と算へてみると、支那の學生數は益々寥々味を加へるであらう。

支那には眼に一丁字ない人が多い。支那漫遊する所謂わが名士有力者は「支那は日本語と英語で旅行ができる」といふ、彼等は停車場に降りれば捧げ銃で軍隊の歡迎をうけ、表へでれば公使館や領事館差廻しの自動車に來り、支那巨頭を訪問すれば日本や米國へ留學した新知識を接待がゝりに附けられるのだから、成程不自由を感じなかつたらう。併しもし彼等が貧乏旅行をしたならば、北京日本公使館の小使が日本語を知らず、天津日本租界を守る日本警察署の巡査が日本語を知らず、甚だしいのは奉天驛前を走る電車の車掌が日本語を知らぬことを發見するであらう。英語を知らぬのはいふまでもない。同文同種だといふが、字を知らぬのだから、筆談もできぬ、同文でなくて無文である。只拙者感心したのは掏摸の敏速巧妙なことだつた。

支那の農家

工業的產業が發達してゐないとして、農業はどうか。支那も土地兼併といふ世界的風潮は免れず小農から小作人が漸增しつゝある。農家六千萬戸の中、土地をもつ者二千六百餘萬戸で、これを所有地の多少によつて區別すれば、六町歩以上を所有する者百四十萬戸、六町以下二町以上の所有者七百六十萬戸、二町以下六反以上の所有者七百八十萬戸、六反以下の所有者一千四十萬戸だ。

對支投資額

こゝまで書いたら、原稿用紙が豫定の五十枚目になつたので、英米などの投資は省くが、わが對支投資は纏まつたのだけでも十七億圓以上にのぼつてゐる。滿鐵へ六億圓、支那政府財政部へ二億四千萬圓、同交通部へ一億三千五百萬圓、その他滿洲へ約五億圓、上海や青島などの紡績へ約三億圓などがそれだ。細かいのは、この外である。わが支那に對して持つ利害の大きく且深いこと、到底英米などの比ではない。これ我國が支那に對しては獨自の態度を採らねばならぬ有力な一つの理由である。

（昭和二年五月十五日發行立命館學誌第百五號所載）

支那の經濟界

第一　港

支那の產業について、いさゝか述ぶるに當り、まづ第一に、港を見たいと思ふ。支那の港は、大部分河港で、海港といへば、大連と香港くらいのものである。しかも、このタツタ二ツの海港も、前者は日本のものであり、後者は英國の經營にかゝる。河港と雖も、天津、上海、漢口など、殆ど總てが、外國の專管居留地に、外國人が建設したもので、支那人の自由にはならぬ。支那人自らが支配し得るのは廣東だけだ。おまけに支那の港灣の管理經營は、外國人の支配する海關港務部の司る所であつて、支那政府交通部内に船政司といふ一局があるが、あつて無きが如きものだ。奉天省の葫蘆島（連山灣）、山東省の芝罘、江蘇省の海州、廣東省の黃埔（廣東の外港）等に築港の議があるが、あまり急には、ものになるまい。

第二　船舶

一九二〇年の統計によると、同年中に、支那の外國貿易に從つた船舶は、累計六萬二千隻、二千九百萬噸、これに依つて行はれた貿易額十三億八千萬兩。また內國貿易に從つた船舶は、十五萬隻七千五百萬噸、この貿易額十五億五千萬兩である。船舶の國籍をみると、外國貿易に從事したものゝ中、三十八パーセントは英國、三十七パーセントは日本、九パーセントが支那自身で、八パーセントは米國、その他が八パーセントとなつてゐる。內國貿易は、さすがに、四十二パーセントが支那で、四十一パーセントは英國、十三パーセントは日本、二パーセントは米國、その他二パーセントとなつてゐる。

沿岸航路は自國で獨占するのが、世界の通性のやうであり、少くもその國民にとつて愉快に違ひないが、支那は何故に、五十八パーセントまで他國に委ねてゐるのか、それは支那が「內水航行權」を他國に與へてゐるのが、有力な一の原因だと思ふ。一八四〇年南京條約で、揚子江は漢口まで、航行權を與へたのが初めで、下關條約では、更に上流及洞庭湖、湖南の諸川、鄱陽湖などを許し、白河は一八六〇年の天津條約で列國に開放した。公海と同じやうに內水へ外國船が入り得るのだから、資本の集積や、企業の經驗に於て、遲れてゐる支那は、內國貿易まで外國船に奪はれるのである。

內國貿易の運輸に活躍する外國船舶は、英國の太古洋行及怡和洋行と、日本の日清汽船である。太古洋行は、四十七隻、六萬噸。怡和洋行は、五十二隻、五萬九千噸。日清汽船は、十二隻、二萬六千噸だ。これ等に對して支那唯一の大きな汽船會社は、李鴻章唱導のもとに、一八七二年創立された（右外國三社のどれよりも古い）招商輪船公司で、三十五隻、三萬五千噸を持つてゐる。その他の船會社は總て小さい、大連汽船もその小さい會社の一ツだが、安東のすぐ下流、三道灣頭まで鴨綠江を逆る一千噸位の船は大連汽船だ。

第三　鐵道

船の次に、やはり運輸機關の鐵道を見やう。一九二二年現在、支那の鐵道は合計一萬二千キロ（七

千五百哩）で、その中、七千キロ（四千三百六十四哩）が中央政府交通部直轄、四百五十キロ（二百八十哩）が官督民有線、七百七十キロ（四百八十哩）が省有又は私設、三千八百キロ（二千三百七十哩）が外國人經營である。

外國人經營の鐵道を、更に國別に分てば、東支鐵道が露支合辦で一千三百七十四哩（資本六千六百萬磅）、滿鐵が日本經營で六百八十四哩（資本四億四千萬圓）、滇越鐵道が佛國經營で二百九十三哩（資本六百二十萬磅）、廣九鐵道の一部が英國經營で二十一哩ある。これ等外國鐵道は、支那領土内を走りながら、支那國家に對して何等の義務を負擔せず、反て鐵道附屬地の行政權や、防備權を持つてゐる。

支那の鐵道は頗る儲かる。官營鐵道七千キロに就て、一九二二年の儲かつた率をみると、一ヶ年間の總收入約一億圓のうち、營業費は僅か五千七百萬圓に過ぎぬ。その前年の一九二一年は營業費五十六パーセント、一九二〇年は四十六パーセントだ。私が一九二六年の夏、北京正陽門車站から天津東車站までの二等切符を買ふと、定價は三圓八角と印刷してあるのに、出札掛は四圓二角を要求した、廻らぬ舌で、その不當を談判してゐる所へ、北京滯在中厄介になつた通譯が見送りに來て四圓二角で間違ひはない、と教へてくれた。その差は軍閥の收入になるらしいが、別に定價の改刷もしない所が、支那らしくて面白いと思つた。

滿鐵はそんな變な眞似はしないが、僅か六百八十四哩の鐵道で、一年に八千萬圓儲ける。支那の鐵道のボロさは、まづこんなものだ。

支那國有鐵道七千キロの敷設費、五億六千三百萬元のうち、五億二百萬元は外債である。

第四　銀行

海陸の血管ともいふべき、船舶と鐵道を述べたから、こんどは經濟界の血管たる銀行を述べる。

支那政府經濟討論所の調査によると、一九二五年七月現在、銀行の總數百四十一行、この資本總額三億七千五百十五萬元、うち拂込額一億五千八百十六萬四百七十一元だ。この中、一千萬元以上の資本は十行、五百萬元以上が十三、百萬元以上が六十一で、一千萬元以上拂込のものは只中國、交通、二行のみである。

今日では外國の銀行も、支那で仕事する場合には、土地の銀行を無視できぬやうになつたといふが、何しろ資本が小さいので、外國の銀行を驅逐するほどの力は、迚も支那の銀行には無い。

支那には新式の銀行に對して、古來の金融業者たる錢莊が三千以上もあり、その資本總額、一億七千萬圓に上るといふ。

第五　農業

支那の第一の產業は、農業である。四億の民の七割五分、即ち六千萬戸は農家で、その中、地主、自作及自作兼小作が合計二千六百萬戸ある、してみると、純粹の小作は三千四百萬戸だ。假りに一家五人とすれば小作に依つて生活するもの一億七千萬人である、支那政府經濟討論所の調査によれば、支那の賃銀勞働者二億九千五百萬人（その家族を含む）のうち、農業勞働者は八割を占むるといふ、即ち二億三千六百萬人である。六千六百萬人の食ひ違ひは、六反以下の土地所有者一千四十萬戸を勞働者とみれば、一應解決は着く。

その生產額を、外國貿易の上にみれば、一九二二年、支那から外國への輸出總額七億兩のうち農產品は實に五億二千萬兩を占めてゐる、七割五分である。一九一三年以來十年間を通覽すれば、全

輸出額に對する、農產品の割は、最低こ雖も六十八パーセント、最高は八十二パーセントに及んでゐる。

稅金からみても、關稅、鹽稅に次ぐものは、田賦收入で、一九一九年—一九二〇年の豫算、四億九千萬元のうち、九千萬元は田賦である。その率は一九一三年來大差ない。

第六　手工業

支那の手工業は、師傅(親方)の家庭を、その儘に工場こし、夥計(年期をすました徒弟)こ學徒(年期中の徒弟)こが、何名かゐる。年期の年限、夥計や學徒の待遇なご、わが國の年期奉公こ大同小異である。

手工業者こ、これに依食する家族こを合して全國總計五千萬人位であらうこ推定されてゐる。その中、北京で最も多いのが絨氈業の六千八百人で。上海では大工、木挽、指物業の八萬人、製衣業の五萬人が最も多く、理髮業こ、製鞋業の各三萬人これに次ぎ、製靴業の一萬人、花園從業者五千人、製香業一千人なごである。南京では絹織物業が六萬人(工場組織七、家內工業一萬一千家)、製衣業四千人、織布、毛織物業三千六百人(六百家)、製鞋業三千人。蕪湖の精米業四千人、理髮業一千二百人。長沙の製襪業三千人(三百家)なごが眼につく數字だ。

第七　石炭

支那の礦物は、石炭が第一位で、第二位は鐵である、アンチモニーの產額は世界第一こいはれる。

石炭は、一九二一年現在で、礦區面積六萬方哩。埋藏量は、同年地質調査所の測定によれば、深度一千米以內、炭層一米以上のもの、無煙炭六十二億五千萬噸、有煙炭百七十二億噸、その他全埋藏量合計五百億噸。

現在支那一ヶ年の石炭消費高は、二千萬噸あまりだから、この割でゆけば將來なほ二千餘年の壽命がある。但し米國のやうに、一ヶ年六億八千萬噸も消費すれば、七十餘年でおしまいだ。

現在支那で近代的採炭の行はれてゐる地方は、奉天、直隸、山東、河南、江西の各省で、また山西、湖南なごは漸次近代化しつゝある。一九二四年の採炭總計は二千四百萬噸、その中三百二十萬噸を輸出し、別に百六十萬噸を輸入してゐる。

主な炭坑こ、その經營者をみるに、埋藏量最も多く、十一億噸こいはれる山西の大同諸坑は支那の經營だが、七億噸の焦作炭坑(河南)は英支合辦、六億噸(滿鐵の計算によれば十億噸)の撫順炭坑は日本經營、四億噸の開灤礦務局(直隸)は英支合辦、次で三億噸の淄川炭坑(山東)が日支合辦こいふ風に、大きなものは大抵外國關係で、その外は三億噸以下のものばかりだ。日本關係のものでは、この外に、日支合辦の本溪湖煤鐵公司があり、埋藏量二億噸こいはれる。

採炭量は一九二三年の統計で、最も多いのは、撫順の四百八十萬噸(一九二六年には六百萬噸を掘り、更に近く年一千萬噸掘る計畫)で、次が開灤の四百五十萬噸、それからはグッこ減つて、焦作(河南)、嶧縣(山東)、萍鄉(江西)の各七十萬噸、淄川(山東)、井陘(直隸)、中原(河南)の各六十萬噸なごである。埋藏量第一位の大同諸坑は、採掘法舊式で僅か四十五萬噸に過ぎぬ。

總採炭量の四十六パーセントは、外國(支那以外の國)經營又は外國この合辦企業になる炭坑から採掘され、また近代的企業による採炭は、その六十六パーセントまでが、外國經營又は合辦だ。

第八　鐵

鐵鑛地として有名なのは、奉天の鞍山、本溪湖、直隷の龍烟、烟筒山、山東の金嶺鎭、江蘇の鳳凰山、安徽の桃冲、湖北の大冶、象鼻山などである。一九二一年地質調査所の發表した所によると、鐵鑛埋藏量は、奉天の三億九千萬噸を最大とし、直隷の九千萬噸、安徽、湖北の各五千萬噸、甘肅の三千五百萬噸、山東の三千萬噸、江西の一千八百萬噸などを主なものとし、合計六億八千萬噸である。鐵鑛から銑鐵のとれる割合は、普通五十パーセント前後だが、奉天の如く二十七パーセントより含んでゐないのもあり、平均合計、六億八千萬噸の鐵鑛から、二億五千萬噸の銑鐵が出來る見込みである。これだけでは、米國の四分の一、英國の五分の四よりないが、なほ未調査の所もあり、現に鞍山の如きも、初めは三億噸の見込だつたが近頃六億噸あると言はれるほどだし、リヒトホフエンの如く、山西一省だけで、將來數百年間、全

世界の需要を滿し得る埋藏量あり、と豪氣なことをいふもあるから、正確な事は判らぬ。

ついでに、御近所諸國の鐵鑛埋藏量をみれば、蘭領印度八億噸、濠洲三億五千萬噸、英領南洋二億五千萬噸、比律賓二億噸、日本六千萬噸——八千萬噸。

漢冶萍煤鐵有限公司（漢陽の製鐵所と、大冶鐵山と、萍鄕炭坑との合併したもの）に日本の資本が、四千萬圓も投ぜられ、その全資本の過半を占めてゐることは人の知る通りで。鞍山は、日支合辦振興公司が採掘して、滿鐵經營の鞍山製鐵所に送り。本溪湖煤鐵公司は、大倉組と東三省官憲との合辦事業。桃冲は、中日實業公司が出資して、裕繁公司が經營し。金嶺鎭は、日支合辦の魯大公司。鳳凰山は、日支合辦華寧公司、といふ風に、支那主要鑛山の大部分は、日本と不可分、不可離の關係にある。

特に漢冶萍公司からは、わが日本は、一九一一年以後、四十ヶ年間に、鐵鑛一千五百萬噸と、銑鐵八百萬噸を買ふ約束がある。

第九　紡績

現代支那の代表的工場工業は、紡績である。紡績は初め上海に、支那の官業として起されたもので、日本の資本家や、企業家が、こゝに着目して工場を建て、支那の資本家が、それに誘はれて盛んになつたものだといふ。

一九二四年一月の調べによると、會社數百十九資本一億五千萬元、錘數三百六十萬、織機數二萬二千五百、棉花消費量、年百三十萬俵（一俵七十封度）、從業勞働者二十萬人で。更に支、日、英に分けて比較すると、支那經營の工場七十三、錘數百八十萬（外に未運轉錘數三十四萬）、織布機一萬三千七百、勞働者十三萬人。日本經營の工場四十一、錘數九十二萬四千（外に未運轉錘數二十九萬）織布機五千九百、勞働者四萬五千六百人。英國經營の工場五十二、錘數二十五萬、織布機二千九百、勞働者一萬九千。

而して紡績業の最も盛んなのは、上海で、次が青島、續いて漢口、天津などである。

第十　その他の近代工業

近代工業の現に支那に發達しつゝあるものは、纖維工業では、前記の如く紡績、織布、絹糸紡績など。食料品工業では、製粉、製糖、製塩、罐詰など。建築工業では、セメント、ガラスなど。金屬工業では、精錬、機械、船舶、車輛、兵器、貨幣製造など。化學工業では、燐寸、紙、蠟燭、石鹼、皮革、化粧品などである。

一二の例をあげてみると、燐寸は、歐洲大戰當時、スエズ運河以東の市場を日本が獨占し、國內

の消費高十五萬噸に對して、八十五萬噸を製造し、支那へも三十萬噸を輸出してゐたが、今では支那で盛んに製造され、日本品は殆ど驅逐されてしまつた。

北支那人の主食物は麵類、南支那人の主食物は米だといふが、歐洲大戰の輸入杜絶が、支那に幸ひして、製粉業が盛んに興り、輸入國が逆に輸出國になつたばかりでなく、南支那人の間にも需要が漸增しつゝあるといふ。

第十一　組織勞働者

前章「支那概觀」の中にも、勞働者の數を少し擧げて置いたが、茲には、參考のために、赤色勞働組合が、自から呼稱する數字を聞かう。

一九二〇年、中國共產黨からモスクワ・インターナショナル第二回大會への報告によれば、現在各產業部門に屬する勞働者五百五萬人。その中組合加入者は、海員四萬五千、鐵道從業員四萬二千、建築工三萬、鑛夫二萬六千、煙草工一萬八千、印刷工一萬、その他を合せて、二十八萬九千人とあつた。

一九二五年五月、廣東で、第二回全國勞働組合代表大會が開かれた際「中華全國總工會」の成立が發表され、共產黨系の全國鐵路總工會、全國海員組合が、中心となつて組織糾合し、加盟組合數百六十、組合員四十五萬人と發表した。

引つゞき、北京、天津、上海、河南、廣東、香港等それ〴〵地方的に、又產業的に、漸次組織聯合し、これ等の總てを總工會に統一し、總工會自體は更にモスクワ赤色組合に加入した。一九二六年五月、第三回全國勞働組合代表大會を廣東で開いた際、總工會に結成されたもの百二十二萬人。更に國民黨農民部の手によつて別に指導結成した農民八十四萬人と發表した。

歐洲の大戰が、支那の資本家に、新式工業の企業を敎へたと同じく。兵士の代りに歐洲の戰線に送られた苦力は、歸來「歸旅工團」を組織し、在佛の青年、李石曾氏等の指導のもとに、洋行歸りの新知識として、各地に散り、支那の勞働界組織化に尠からず力を致したといふ。

最近では、上海閘北の絹糸工場女工の組織した女子進德會は、一萬二千の組合員を擁し、女ながらも數度の罷工を經て、基礎も相當確りしてゐるとのことだ。情けないことには、支那國民には、文字のある者が少く、上海の勞働者に例をとつてみると、男工の六割、女工の八割五分は完全無缺な文盲だ。折角高尙な思想を、美辭麗句を以て綴り、汝等めざめよ！と宣傳ビラを撒いてもサッパリこたえぬ。そこで、勞働組合で餘裕のあるのは學校を設けて無產者敎育をしてゐる、但し階級鬪爭の鬪士を造るといふやうな特種なものは少く、普通敎育を目的とするのが多い。

わが國の人口と滿洲の資源

昭和二年五月十九日、内閣統計局の發表した所によると、去年一年間における、わが國内地の人口增加は、實に百萬突破の勢ひだといふ。わが國歷史あつて以來初めての、この大激增には何人も驚かされた。生めよ、增えよ、地に滿てよ、と、お產のたびに「お芽出度う」を繰り返すのが何だか濟まぬやうな氣がする。

日本の人口

大正十四年の國勢調査によれば、内地の人口は五千九百七十四萬人、帝國總人口は八千三百五十萬人だ。今では明に内地だけで六千萬を突破したわけである。

内地の面積

内地の面積は約二萬五千方里。このタッタ二萬五千方里の狹い所に六千萬以上の人が住むでゐるのだ。

内地人口密度

從つて、内地人口の密度は、一方里に二千四百人以上になる。正確にいへば、十四年の國勢調査の當時で、二千四百二十五人。新式にメートルで言へば、一方粁百五十七人。現在全世界の人口が十七億、この平均密度は一方粁十一人六分だからわが内地の密度は世界平均の十三倍半だ。密度の

高いこと白、和、英(勿論アイルランドを除く)に次ぐ。大洋洲はあの廣さで全人口八百萬、一方粁僅か零コンマ九人だ、タヾの一人に足らぬのだが白人濠洲主義を稱へてわれ等日本人には堅く門戸を閉鎖してゐる。南アメリカは全人口六千六百萬殆ごわが國内地ほどの人口よりない、南米平均密度六人に過ぎぬ。殊に世界唯一の日本人歡迎國たるブラジルは、わが國の二十二倍の廣さがあつて人口僅か三千萬餘に過ぎないのだから注目せぬ譯にゆかぬ。

内地婚姻數

日本の内地人は、これほど密度の高い所に、ゴシャ〳〵と押し合ひへし合ひ住みつゝ、一年に五十萬組に餘る結婚をする。一日平均一千四百組の新郎新婦が「高砂ヤア……」と顏を赧くしてゐるのだ。

内地離婚數

そして同じ一年内に、五萬餘組の離婚がある、一日平均百四十組だ。十回お芽出度がある度に、一回づゝ破鏡の嘆きがある譯だ。綿帽子が十個賣れると、袖を嚙む女房が一人できるわけだ。

内地出生數

結婚したり、離婚したり、何もしなかつたり、新嫁、古嫁、庶子、私生子、一切合財無差別平等に合算して、一年に二百萬人の赤ん坊が生れる。毎日五千四百六十人の赤ん坊が日本内地だけでもオギャアと初めて叫ぶのだ。

内地死亡數

他方毎年百二十五萬人の死亡者がある。一日平均三千四百三十人が北邙茶毘一片の煙と化すわけ

だ。

内地の死産

右は動物學上人間であるこ共に、法律上人間である者の死亡數だが、更に動物學上人間であつて法律上「人」に非ず、單に「物」に過ぎぬものゝ死亡がある。卽死産だ。内地の死産の數が、年に十二萬六千ある。折角十ヶ月の間、苦しみながら、内地人は一年に十二萬六千回づゝ腹の痛め損をしてゐるのだ。

幼兒死亡數

一度は「人」こして戸籍にものり、乳房を含んだ子も、滿一歳に至るまでに、出生數の十六乃至十九パーセントは死ぬ。また一年の死亡全體の三割八分までは五歳未滿の嬰兒だ。つまり百二十五萬人の死亡者のうち四十七萬五千人は可憐にも五歳未滿の子なのだ。

人口增加

これほど死んでも、年々七十五萬人づつ增加した、昨年の如きは百萬人增えた。

内地耕地面積

これだけの人を日本はどうして養つてゆかうこするのか。現在内地の耕地面積六百十三萬町歩。迚も足らぬ。更に十五度までの傾斜地を全部拓くこしても二百萬町歩得るに過ぎぬ。數年前までは内地の耕地は、年に數萬町づつ增加したものだが大正十二年以來形勢一變し、市街地、鐵道、道路等に奪はるゝ面積は、新に開墾する面積を超過し差引年々一萬數千町歩づつの田畑を減らしつゝある。

國難

誠に國難だ。わが國は人口過剩し、食糧不足し燃料、鐵こもに無い。これを救ふの道は、加工工業を盛んにし（原料がないから）貿易を振興し、海運政策に意を重んじ、また食料を海に求むるここが肝要だが、植民の忽せにし得ないここもいふまでもない。

滿蒙の面積人口

こゝで滿蒙をみる。東三省及東部内蒙古の面積は廣袤七萬五千方里。わが内地の三倍あつて、人口は二千八百萬人、内地の半ばに足らぬ。

滿蒙の餘裕

滿洲及東部内蒙古の現在耕作地は一千三百三十萬町歩（内地の耕地六百十三萬町歩）に上るが、なほ未墾地が一千七百五十萬町歩殘つてゐる、内地のやうに裏作は作り得ぬが、關東州こ同じ密度に入れるこすれば、一億二千萬人を收容し得る。もし内地こ同じ密度に收容するならば、現在の人口の上になほ一億五千萬人を入れて餘裕綽々たるものであらう。

滿蒙の産物

もつこも算盤玉で彈き出すやうに人間樣を植ゑつけ得るものではないが、もう少し滿蒙へ内地人が乘出しても良いこ思ふのは、次のやうに、内地に無いもので、國家存立上必要缺くべからざるもの（少くも現在及近い將來では）が皆滿蒙にあるここだ。

撫順炭坑

内地に無い石炭が、こゝには十億噸埋藏されて

ゐる。現在一日に二萬噸、一年に六百萬噸掘つてゐるが、近く年に一千萬噸掘る計畫だ。年に一千萬噸掘つても、なほ百ヶ年の壽命がある。わが國が有する採掘權はあと五十年より無いが、五十年經つた所で手離す筈はない。撫順には石炭の外にオイルセイルがある。石炭掘る際の邪魔物として從來捨てた岩から油をとることを發明したのだ。

オイルセイル

このオイルセイルが撫順に五十五億噸あるのだ。初めは實驗的には油を採り得ても、經濟的には採り得なかつたが、近頃經濟的に利用し得るやうになつた。わが國の海軍は一年に重油が五六十萬噸要る、戰時にはこの二倍要る。從來この重油は自給の途がなかつたので、殘念ながら、メキシコ、ジヤワ、ボルネオ、アメリカ等から買つてゐた。こんどオイルセイルの發見と、北カラフトの重油を得て、自給方針初めて立ち、アメリカの重油は本年六月、ボルネオの重油は十七年度限り契約を解除するに決したといふ。撫順では石炭が豐富にあるため、發電費僅か一厘三毛、時にはマイナスになる、京都あたりの百分の一だ。

鞍山製鐵所

鞍山の鐵鑛埋藏量は三億噸乃至六億噸と見られてゐる。わが國では年々百萬噸の銑鐵を要するがそのうち五十萬噸は八幡で製し、その他で十萬噸製する、あとの四十萬噸は全然外國から買つてゐる譯だ。現在わが國が有する鐵鑛は僅かに六千萬噸のみだ。鐵鑛から五十パーセントの銑鐵を得るとして三千萬噸すなはち僅々三十ヶ年の命よりない。故に八幡の如き現に材料を漢冶萍から買ひ國內の鐵鑛保存に努めてゐる。鞍山では將來年に百萬噸の銑鐵を造り、獨力母國の需要を滿す計畫で現に年々二百萬圓づゝの損害を滿鐵が甘受して維持發展に努め、着々新設備を施しつゝある。媒容劑の石灰石なども附近に豐富にあり、益々この工場の價値を高めてゐる。但し水だけは不便だが川(滿洲の川は道路兼用で、平素表面に水はない)の底に井戸を掘つて、工場のある山の上へ水を引き上げてゐる。

滿蒙の農產物

鑛業のみでなく、農產物も豐である。

高粱	三千六百萬石
粟	三千萬石
大豆	二千四百萬石
玉蜀黍	一千萬石
小麥	八百五十萬石
大麥	百二十萬石
水稻陸稻合計	百五十萬石

過剩穀類の最たるものは大豆だ。大豆は世界產額の八割を支那に產するといふが、その支那の七割は東三省に產するのだ。わが國が支那から輸入するものゝ大部分は、この大豆や油糟だ。東三省は大豆の本場だけに油房の數は殆ど六百に達する。身に一糸を纏はぬ苦力が、大豆をフカしたり型に入れて油糟を造つたり、油を絞つたりしてゐる。關西方面で用ひてゐる天ぷらの油は殆ど總てが素つ裸の苦力の足によつて踏み出され絞り出されたものだといふ。

大豆高粱の食糧化

滿鐵中央試驗所では、油を絞つた大豆の蛋白を利用し、肥料のみでなく動物の飼料に、進んでは人間の食糧たらしめ、日本人の口に合ふやうにし母國食糧問題の解決に資したい、と目下研究中である。前東京市長田尻北雷博士の說と似てゐる。

更に高粱の主成分たる澱粉をも食糧に利用する研究中だ。支那人は高粱を赤い色の儘食つてゐるが近頃これを純白にする機械が發明され、京都帝大衛生學教室でも研究中だ。彼此相寄り、大豆や高粱が日本人の食糧になれば、わが國の食糧問題は忽ち解決するであらう。

資本と技術

これだけ廣い土地があつて、産物があつて、帝國軍人の保護をうけ得る滿蒙の天地だ、まだ少し位は大丈夫植民できる。何しろ勞力は安い苦力が豐富だから勞働植民は駄目であらうが、資本と技術の植民はできると思ふ。

辻も一年に百萬人も殖える人の捌け場所にはなるまいが、殖える人間の食ふ食糧を滿蒙から運んで來ることはできるやうに思ふ。資本と技術の利用奈何によつて……。

（昭和二年六月十五日發行
立命館學誌第百六號所載）

滿洲の産業と勞働狀態

◇——◇

在滿邦人の數は二十萬といふが、ほんとは二十萬に少し足らぬ、その中半分は大連にゐる、尤もこの二十萬の外に鮮人が七十萬乃至百萬ゐるといふ。「內地人は小奇麗にしてゐて金を儲けやうとする、渡つた年は蓑笠きて稼ぐが、二年目には詰襟をきる、三年目には脊廣に粹なネクタイ、四年目には借金で巧くいけば內地へ夜逃げ、惡くいけば盜人になる」とは陸軍の特務機關苦米地中佐の話だ。內地人が滿鐵沿線に多いに反して鮮人は間島に最も多く、遠くは黑龍江の蘿北、綏東邊りにも水田を耕作して隨分澤山ゐる。支那人が水田を嫌ふに反して鮮人は內地人と同じく水田耕作が巧みで、滿洲の水田開拓は鮮人に俟つほかないといふが、支那人の地主が老獪で、折角開墾した水田も巧みにとり上げてしまふので、朝鮮總督府では低利資金を融通して鮮人を保護してゐる。

◇——◇

滿洲は曾つて高勾麗が席捲した所だ、今も當時の烽火臺が所々の山巓に殘つてゐるほどだから鮮人が多いのに不思議はないが、清朝はもと滿蒙を封鎖して漢民族が滿蒙への移住を嚴禁し、反對に滿洲人は漢本土の要所々々へ移住させたので、滿洲の人口は稀薄になつたものらしい。滿蒙移住を禁じたのはいふまでもなく、清朝が萬一の時は熱河、奉天に立籠る計畫を持つてゐたからであら

う。この點について民國前内閣の要路にゐた姚震氏は「支那は從來屢々他民族に征服された、併し結局は支那本來の民族が勝ち、前に征服者であつた民族は自分の民族を擧げて、被征服者たる支那本來の民族へ贈物にしてしまう、元の蒙、清の滿、皆然りだ」と、而して氏は呵々大笑して曰く「持參金付の嫁さんみたいなものですよ、初めは嫌天下だが、結局亭主の財産を增すだけです」と。兎に角清朝といふ持參金付嫁さんは、漢民族といふ亭主に中々容易に自分の里なる滿洲へ足踏みさせなかつた。勿論掟を潛るものゝあつたことは想像されるが、正式に許したのは、順治十年で「遼東招民令」を發布して、初めて遼東のみに許した、その後道元十年長春まで許し、咸豐から、光緒年間に至り、長髪賊の頃、山東の大飢饉で山東人が全滅しそうになつたので吉林全省を開放した。今日では年々山東の苦力が滿洲へ四十萬入る。金を貯めると歸るのが普通だが、その中何割かは必ず殘るので、今では南滿は殆ど人口飽和狀態になつてゐる、敢て多すぎるとは言はぬが、決して少な過ぎるといふ程でもない。今後眼をつけるのは北滿だ、と聞いた。

◇——◇

滿洲は滿鐵の天下である、滿鐵を除いたら滿洲に日本なしだ、滿洲に於ける滿鐵の關係會社實に七十餘。滿鐵の息のかゝらぬ會社と言へば寥々として僅かに二、三、雨の夜に星を求むるが如きものである。關東廳と總領事館、滿鐵に陸軍、それに朝鮮總督府を加へて五頭政治だといふが、われ等素通り客には滿鐵ばかり眼につく。軍事的侵略は時勢が許さず、外務省は列國の思惑を氣にしてゐる際「經濟的提携」は時の寵兒である、形式上經濟的の集團、一の營利會社である滿鐵はこの際所謂經濟的發展に最も便利な地位にあると思はれる。

◇——◇

南滿では今年始政二十年だといふので閑院宮殿下の臺臨を仰いで盛大な記念式を擧行したが、この二十年間に南滿の發展したことは素張らしいものである、成程兵舍などは總てロシアからの戰利品だし、市街もロシア時代からできてゐたものが多く、旅順の立派な新市街でも、日本が建てたのは僅々博物館一ッだけだが、産業方面では十倍して大連の貿易は五億に近い。支那の貿易は大體論として、上海、青島は輸出入均等、大連、漢口は輸出超過、天津は輸入超過といはゝるが、殊に大連の如きは、浦鹽の全貿易額一億圓弱に對して、出超だけが七千萬圓(十四年度)、なほ年々累進しつゝあるのだからゴッイ。

◇——◇

滿洲に産するもの、三千萬石を突破する高粱、二千萬石を越える大豆、粟、玉蜀黍を暫くお預りにしても。畜産は住民二人に對して一頭の割、豚が六百七十萬頭、馬が二百五十萬頭、牛が二百萬頭、驢馬が六十萬頭。林産は針葉樹を主として長白山地方、鴨綠江流域、北滿梅林地方、吉林三姓地方、興安嶺などから五六十億石。撫順の石炭十億噸、鞍山の鐵六億噸。これだけ産物があつて滿蒙の人口二千八百萬、面積が滿蒙合せて凡そ七萬五千方里だといふから、南滿の人口が飽和狀態だといつた所で稀薄なもの、一平方里僅か三百七十人だ。

◇——◇

滿洲には、まだ水田にし得る面積が五十萬町歩乃至百萬町歩あるといはれ、大倉組の如きパインタラで三千町歩の水田を開いてゐるが、商租權の問題が解決せねば諸事困難、鮮人は多く歸化の方法をとつてゐるといふ。いづれにしても諸物資及

人間の運搬には鐵道が必要だといふのと、鐵道を敷けば沿線土地の價格が暴騰して地主が儲かるばかりでなく、作物の値が上つて小作人も儲かる、現に兆昂線が開通して沿線の作物は値が三倍になつたといふので、滿蒙の鐵道熱は恐ろしい程だ。バインタラから開魯、林西、赤峰、熱河の線、兆南から索倫の線、開原から海龍の線、奉天から海龍の線、吉林から磐石、海龍の線、吉林から敦化の線、吉林からハルピンの線、長春から扶餘の線、ハルピンの對岸馬家船口から呼蘭、海倫の線などいづれも目下工事中若くは可能性のある計畫線で、愉快なことは、それ等の鐵道が東支鐵道の「廣軌」に據らず、滿鐵の「準軌」に準じて軌幅を定められることである。更に將來は、馬家船口——海倫の線を克山を經て嫩江に延し、他方過般開通した兆昂鐵道を北上せしめて、チ、ハル、訥河を經、嫩江で結ぶ計畫で、前述の鐵道はその大部分

が滿鐵の請負又は後援になるのである。

◇——◇

右の鐵道開通に從ひ幾多の産業が興り又は旺んになることは當然であるが、それに伴なつて、內地から勞働者を送り得るかは大なる疑問である、恐らく勞働殖民は駄目であらう。目下わが國では人の餘ることと、食料と燃料の足らぬこと、この三ツが大問題になつてゐる。その中燃料は急流を利用して所謂白い石炭を電化したり、撫順の石炭の外オイルセイルの研究に成功したり、少々安堵しても可い狀態にある。食料は一時支那に求むる議論もあつたが、支那は食料輸入國だから駄目、最近朝鮮總督府では「産米增殖計畫」を樹てた、これによると、大正十五年から向ふ十二ヶ年間に、三億圓を投じて灌漑と、施肥と、種子と、耕地整理とで八百二十萬石增收できるやうにする。內地の米の實收高は五千萬石で、消費高は六千萬石、差引一千萬石足らぬ。朝鮮は內地と同じく第一の産業が農業で、その中の第一の産物が米だが一千五百萬石より穫れぬ、しかもその中五百萬石は內地へ移出してゐる、産米增殖計畫で豫定通り八百二十萬石增收になつたら、更に五百萬石だけ內地へ賣つて貰つて不足の穴埋めにし、あとの三百二十萬石は朝鮮で喰べて貰ふ計畫だといふ。まづこれで食料の當座のヤリクリはつく勘定だが、更に永遠の案としては滿鐵中央試驗所で大豆の蛋白質を生かす研究中である、目下大豆は油を絞つた粕はいはゆる油粕で、肥料にしてゐるが、それでは智惠が無さすぎるといふので、家畜の飼料から進んでは人間の食料に仕上げやうと努力してゐる、又高粱の主成分である澱粉をも何とか日本人の食料にしたいといふので、力を入れてゐる。三千餘萬石の高粱、二千餘萬石の大豆がわが國民の食料になつたら、これも一安心できるが、困るのは、人間の多すぎる問題である。

◇——◇

そこで、「行け！廣漠、豐沃の滿洲へ！青年よ起て！」などゝ所謂先覺者の皷舞叱咤となるのだが、無暗に行つた所で失職浮浪、赤い夕陽の下に青い顏して飢死して貰つては困る。滿洲には安い苦力がゐる、山東といふ世界にも稀な人口稠密、地味磽确な地方があつて、何んぼでも安い勞働者を産出する。そして彼等は低級な生活に慣れてゐる、迚も程度の高い生活の習慣のついた日本人は賃銀の上で競爭ができぬ。理窟をやめて二、三の實例をあげやう。

◇——◇

國策の上から言つても、滿鐵附屬事業中大企模な點から言つても、兩横綱はいふまでもなく撫順炭坑と、鞍山製鐵所である。鞍山は十五年四月一日現在の從業者、職員二二八、傭員日本人六六九、

支那人一六五一、鑛夫は支那人ばかり一日平均三千九百人、年々二百萬圓も損してゐるから鐵の値が出るまで極端に事業を縮少してゐる。撫順は十五年三月十五日現在で、日本人の從業員二千七百九十一名、支那人四萬三千七百八十五名、滿鐵の弗箱といはるゝだけに景氣が良いから例を撫順にとる。撫順の鑛夫の平均日給は七拾錢である、勞働時間は十二時間だが、サボリ放題だ、注意した所で「メイハーズ」と濟ましてゐるから監督者もメイハーズ(仕方がない)と諦める。それでも一日二萬噸、一年三百日働くとして年に六百萬噸は掘る、昨年は五百七十萬噸掘つたが、近く一千萬噸掘る計畫で、オイルセイルは好成績だし、モンド式で電氣を起せば、發電費は僅か一厘三毛、昨年十月から本年三月までの如きは發電費はロハより廉くなつた。儲かつて仕樣がないので鑛夫がサボつても喧ましくいはぬのだ。滿洲の平均賃銀は六十三錢だから七十錢の撫順炭坑は希望者が非常に多い。茲に働く苦力の七割强は山東省、二割强は直隷省、一割弱が御膝元の東三省だが、四萬四千の人が悉く獨身者だから、會社で宿泊所を建て賄ひも指定食堂でする。宿泊所は煉瓦建で一人、月一圓、賄ひは一般食堂だと三食四十錢位とるが、會社は四萬人分一度に買つて鐵道で運んで自分の電氣や瓦斯で煮るので三食が十一錢で出來る、着物はやゝ贅澤なもので十五圓位、三年は着られる、假りに一ヶ年で破れるとして日に五錢卽ち衣、食、住を合せて一日十九錢だ。日に五十錢は殘る勘定だが、たとへサボルにした所で、十二時間坑の中で(野天掘もあるが)眞黑になつて働いて、坑を出たからといつて、直ちに銀行へ駈けつけられるものでなく、飲む、打つ、買ふはこの種の勞働者に附きものだ。支那人は賭博が好きな國民だ、一錢のパンを買ふにも籤を引いて買ふほどだ、又

宿泊所の近所には支那人の私娼がウヨ〳〵してゐる。併しそれでも一日平均二十九錢の貯金をしてゐるものがあり、一年も稼げば女房を買ふ資本が出來る、三年も稼げば、妻子眷族を三年位遊ばせて食はせ得る程貯めるといふ。

◇——◇

撫順は大工業の例だが、小工業の例として、大連の株式會社三泰油房をあけよう、多くの油房が休業してゐる際、三泰油房だけは機械を動かしてゐた、いふまでもなく大豆を絞つて、油と油粕とを造る仕事である。苦力は素裸である。文字通り身に一糸を纏ふて居らぬ。褌をしめても直ちに油で汚れてしまふからだ、見る眼にも隨分不快、苦痛の多い仕事のやうだが、賃銀は僅か四十錢だ。こんぢは大連埠頭に立つてみよう、日給二圓とるものがあるといふから聞いてみると、七貫五百目の油粕を一度に十枚かつぐといふ。埠頭では苦力を華工と稱んで大いに勞働者優遇ぶりを自慢してゐるが、毎日この埠頭で働く華工の數一萬乃至二萬人の中、油粕十枚かつぎ得るものは餘り多く無いし、親方や小頭が頭をはねるから五六十錢のものが多いであらう。馬車は三人一緒に十町ほど乘つて二十錢、人力車は推して知るべし。大連の電車には日本人の車掌と支那人の車掌と乘組んでゐるが、同じ仕事をしても、日本人と支那人とは日給が一圓程違ふ。日本人が一圓六十錢ならば、支那人は六十錢だ。

◇——◇

山東から出稼ぎに來る苦力の中には汽車に乘らぬものが澤山ある、營口あたりまでヂャンクで來て、上陸後は只管に歩く、百里、二百里は問題でない、絡驛として續いてゐる、暮るれば木の根、岩の葛ゴロリと寢る、簡便なものである、氣の利いたのは車に夜具を積んでゆく。一體支那人は普

通の旅人でも夜具を携帶して旅行し、宿賃を儉約する者が多いので、京奉鐵道など三等車は普通の棚の外に坐席の上に巾の廣い棚が坐席と並行して卽普通の棚と直角に造つてある。これ程節儉の念に富む支那人だ、不潔を不潔と思はぬ支那人だ、迚も日本人は勞働者として太刀打はできぬ。勞働者の植民は駄目だと思ふ。

◇——◇

勞働者ばかりでなく商人も漸次壓迫される、以前には奉天城内に日本人の雜貨問屋があつて中々旺んなものであつた、それが近頃閉店してしまつた、支那人の小賣商が團結して代表者を直接大阪の川口へ送り直接取引を初めたからだ。日本人は大阪へ仕入に行くにしても二等に乘つて食堂車へ這入る、支那人は三等の窓から一錢で四ッのまくわ瓜を買つて腹を造るから仕入の經費がうんと違ふ、結局支那人の小賣店の方が日本人の問屋より

原價の廉い品を得る事になるから、問屋が立つて行くはずがない。長春邊りの仲買人も大戰當時の株を今では殆ど支那人に奪はれた。支那人の用ひぬ疊まで今では支那人が造つてゐる。奉天では日本人の洗濯屋は支那人の洗濯屋に比して洗濯代が倍だと聞いた「君の所は高價い」といふと「支那人とは生活程度が違ひますから」といふさうだ。かくて奉天の店は日に日に日本人の看板を下して支那人の名に書き換へつゝある、城内や商埠地ばかりでない、滿鐵附屬地に於て皆然りである。但し僕が遼陽の遼陽洗布所で西洋洗濯させた實驗によると、麻詰襟上下で五十錢、猿又五錢で、内地より安いと思つた。

◇——◇

右には悲觀論ばかり述べたが、昨年十月の國勢調査によると、邦人は關東州に九萬五千、滿鐵附屬地に九萬、合計十八萬五千で、大正九年の調査と比較して五年間に二萬五千人增加してゐる。たとへ勞働者の植民は駄目でも富源はあるし、安い勞力は豐富にあるのだから資本の投下と技術家の植民はできる。小さい賣買は支那人は上手だが、大資本がない。姚震氏にいはせると、支那の相續制度、利益分配制度、永小作制度が大資本の集積を妨げてゐるのださうで、從て富の偏倚がなく、資本主義爛熟の産物である勞働問題も支那には起らぬさうである。南方に勞働問題が起るやうに見えるが實は政治運動で、その證據に或る野心家の目的が達せられるか、或は目的達成不可能なことが判明するとその運動は雲散霧消してしまふ。又氏の言によると、ロシアが金を供給して煽動しても、金の切れ目が緣の切れ目で、支那人は身錢を切つてまで勞働運動はせぬさうである。勞働者の供給過多で爭議は勞働者に損に定つてゐるさうである。兎に角滿洲では、張作霖氏が赤い者や左へ傾いたものは、片ッ端から銃殺してしまふので齒が立たぬ。滿洲は資本家の樂園である。滿洲で思想問題といへば只國權問題があるだけである。

◇——◇

最後に日、支經濟上の押し合ひの景況を國境である安東について一覽し、この雜駁な一文の筆を擱くことにしたい。

安東縣には現に九萬の支那人がゐる、その他に毎年二萬五千の苦力が獨身で來て、その中、三四割づゝ定着する。多く山東人だがそれが金をためて、立派な實業家になつて、商務會(商業會議所)を造り、一種の警察權をもち、道尹の言など屁とも思はず、奉天票强制通用の張作霖氏の暴壓も、安東縣だけは手がつけられなかつた。市街に住む日本人一萬人朝鮮人六千五百人、朝鮮より物價が廉いので毎日國境を越えて安東まで飯を食ひにゆく人がある。三保山に登ると、柞蠶の工場、三層

建の倉庫が櫛比してゐるのが眼前一杯に擴がる、砂河鎭の如き煙突が林立してゐるが、その中に一の日本工場主がない、柞蠶は安東だけの輸出高年額三千萬圓、この分前をこり得る日本人は一名もないのだ、昨年まで一名あつたが今では全く倒れてしまつた。大豆の輸出額は二千萬圓、その中日本の經營主は只一人だ、支那人には五六十名の工場主がある。辛くも日本人がやつてゐるのは製材だけだ、これさへ盛んな時は三十二、三の工場があつたのが、今は只二、三の工場を餘すのみだ。安東の三大工業といはれる柞蠶、大豆、製材三者ともこの通りだ「情なくて涙がこぼれる」と西澤安東領事はいつた。只鮮人だけは成績がよいやうだ、安東より下流にある水田は隨分廣いものだが總て鮮人の開墾になるものだし、上流には火田民がゐる。朝鮮金融會があつて小作人の手に一物なくとも一口十圓の株を持つて第一回拂込の一圓を拂込めば、三十圓を貸してくれ、それが播種から收穫までの生活費となる、この貸金が現に延で月に百萬圓に上り、大正十一年來二割の配當を續けてゐる。內地まで信用のある鮮人もチョイ〳〵あり、萬を以て算ふる財產家も五指を算へ、多いのは七八萬圓もつてゐる、とこれも西澤領事に聞いた。

（大正十五年十月十五日發行立命館學誌第九十八號所載）

支那の親日學校と排日學校

天津の官、私立の學校の數多い中に、滿足な學校と言へば、まづ中日學院と、南開學校くらゐのものであらうが、その二校が一は全然親日學校であるに對して、他は極端な排日學校で、一は質實他は華美、お隣り同志の癖に喧嘩ばかりしてゐるから面白い。この文を讀まるゝ頃は立命館も冬期休暇の前後だと思ふが、僕が右の兩校を訪問したのは大正十五年の暑中休暇の最中だつた。

× × ×

天津日本租界の郊外に接する所に日本の兵營がある、兵營は海光寺といふ寺の跡を買つたものださうで、「日本兵營（チーパンピーイン）」といふよりも「海光寺（ハイコンス）」といつたほうが通りが良い。夜半市中を散歩して無賴漢に包圍でもされたら「俺は海光寺（ハイコンス）の者だぞッ、見違へるなッ」と喚呵をきれば可い、よしその喚呵が赤ん坊の寢言（ねごと）みたいな片言（かたこと）でも對手の逃げ失せることは保證付である。その兵營の前に運河がある、河幅は五間ほどの小さなものだが白河に通ずる便があるため、夏は舟楫輻輳、冬は河面氷結して橇の運行に便ずる。運河に沿つて南へ二三町行つた所に中日學院があるのだ、前は運河で舟遊びに適し、背後は廣漠たる草原、所々に池がある、草原の兎狩、月夜池上の交盃詩吟「天津も一歩外に出ればこんな所があるんです」藤江（かとう）中日學院教頭は同院の屋上から四方を指顧して四季折々の面白さを話してくれた。

× × ×

中日學院は初め天津同文書院といひ、東亞同文會の經營だつたが、今は中日教育研究會の經營する所である。中日教育研究會は、東亞同文書院から一名、中日學院から二名、北京大學教授から五名、合計八名で組織する會であるが、中日學院からの二名は江藤監督と藤江教頭がこれに當り、北京大學の五名は曾つて日本に留學し日本に理解をもつ支那人ばかりである。學校の名前を變へ、經營者の形式を變へたのは、ひとへに排日の鋭鋒を避けて日支親善の實を擧げやうとの深慮に出でたものである。科程は普通中學三年、高等中學三年、現在の在學生は合計二百名だ。目的が卒業生を日本へ留學させるに在るのだから無暗に多數は入學させぬ、これ在學生の比較的少い所以である。序だが支那の小學校は男の方を國民學校といひ四ヶ年、その上に高等小學校が二ヶ年ある、女の方は女學校といひこれを分つて國民科四ヶ年、高等小學科二ヶ年としてある、義務教育だがそんな義務を遵奉するより男の子なら苦力、女の子なら婢かなんかに賣つた方が儲かるから、就學率は勿論問題にならぬ、十二、三歳の車夫は常に見る所だ、可哀相で乘つて居れぬが、御當人は平氣で大人に負けぬやう走つてゐる。十二、三歳の女の子が一生涯十五圓位で買へるといふ、日本人の役人なんかでも賣りに來る娘を買つて女中に使ひ、支那を去るに當つて支那人に嫁入らせてやる人があるといふ。支那人は女房を買はふとすれば、苦力の女房でも百圓位はするのだから、日本人の膝下で小綺麗になつて日本語の一つも覺えたハイカラ娘は貰ひ手が多いに違ひない。日本人の方でも最初十五圓か二十圓出せば、あとは給料の要らぬ女中が使ひ得るのだから一舉兩得だが、只初め暫く言葉の通ぜぬことゝ、持ち逃げされる危險率の高いことが難だといふ。とにかく中日學院では高等小學校を卒へた者を入學させる、大正十五年初めて二十一名の卒業生を出し、それ〴〵日本へ留學させた。在學生の月謝は年四十圓、寄宿舍は食料が月五圓五十錢、その他の雜費若干、先生の月給は日本人は二、三百圓、支那人は最高幹部は二、三百圓だが、普通は六十圓から百圓、廉いやうだが、支那の學校では給料など貰へぬ月の方が多いのだから、キチン〳〵と月給袋を渡される中日學院へは有爲の新進學者が押寄せるさうだ。院の費用年額六萬ドルはいふまでもなく、わが國の對支文化事業から出してゐる。

× × ×

天津の官立大學といへば誰でも北洋大學を思ひだすが、僕の行つた時は勿論閉鎖、その他と雖も官立で開校してゐるのは一つもなかつた。迂つかり視察に行つて失望して歸つた日本人の教育家もあると聞いた。高等工業の如きは教師の俸給を支拂はざること既に（大正十五年八月二十六日まで）十三ヶ月に及ぶといふ。學校閉鎖の主な原因が三つある、一には兵亂相繼ぎ、軍隊が占領して病院にして仕舞ふ、僕は北京の國子監や、萬壽山でさへ何々軍の宿舍といふやうな張紙をみた。況んや宿舍、病舍に最も便利な學校を支那の軍隊が見逃すはずがない、馮が來れば馮に占領され、張が來れば張に奪はれる、天津が屢々爭奪の目標となるだけに學校の被害は多い譯である。二には戰時濫費のため學校を維持する費用がないのである、金が不足すれば文化的な事業は第一に犧牲に供せられるのだ。三には政治ゴロが學生を煽動して暴動を起させ授業を受けさせぬことがある。この中にあつて、毅然として授業を續けて行くのは「私立」の中日學院と南開學校だけである。僕は南開學校をみるため、中日學院の門前から舟を泛べ

た。

× × ×

南開學校は中日學院よりも歴史が古いだけ規模も大きなものである。中日學院から西南に大學部、西北に中學部がある、七八町を一邊とする二等邊三角形を造ると中日學院は頂點に、南開學校の大學部と中學部は底邊の兩角に在る、そしてこの底邊の長さは十町位もあらうかと思ふ。大學部は男女共學で男學生三百名、女學生四十名、中學部は普通中學三年、高等中學三年、合計生徒一千六百名、別に女子中學があつて生徒二百名。同校は、土地の金滿家で德望高い嚴修が創立したもので、私塾を開いて二十名塾生を置いたのが抑もの濫觴、日本視察後、全く範を日本に採り、慶應義塾のやうに發展したものだが、大正四年米國に遊んで歸ると、俄然校風を一變して、看板を米國式に塗り變へて仕舞ひ、昨日の親日學校は今日の排日學校の總元締になつてしまつた。

× × ×

舟は中央に卓子を置き、舷側に欄干をつけ、淺酌低唱に便して居る、本來この舟は交通の便よりも美妓を擁して酒を汲むために準備されてゐるものだそうで、漕いでゆく途にも運送船に交つて三不管の美妓を携へた遊野郎の船と屢々行交ふた。三不管とは飲む、賭つ、買ふ、の三つについては管轄する者がない、天下御免、關せず焉の意味で支那の都市にはよくある。天津に今三不管のある土地はもと日本租界だつたが、ケツの穴の小さい日本當局は廣い租界を維持しきれず、支那當局に一部を還附して仕舞つた、所が支那當局の方は先が見える、將來必ず日本が再び欲しくなる時があると、と豫想し、日本が再び手が出せぬやう、淫風吹き荒び、無賴漢横行する三不管にして仕舞つた、忽ちにして狹斜縱横、紅燈綠酒、塵舖櫛比し

て、文字通り肩摩轂擊してゐる。今日、日本租界の狹隘を告げる際、この三不管の華やかな繁昌をみて、指を啣へる外務當局があるか否か——兎に角僕の舟は進む。堤の上で眼かくしをされた馬が臼のやうなものゝ周圍をぐる〳〵廻つてゐる、運河の水を田圃へ汲みあげる水車を廻してゐるのだ、眼かくしをして置かぬと馬は同じ場所を毎日々々廻るのが馬鹿らしくなつて動かぬそうで、それかと言つて馬方を、一人つけて置くのも不經濟だから、眼かくしをする方法を考へたのだそうだ。眼の見えなくなつた馬は本能的に前へ進む、所が手綱は水車の心棒へ結ひつけてあるから結果は周圍をぐる〳〵廻ることになる、御當人（或は御當馬）の考へでは一日中に大分遠い所へ行つたつもりだが夕方眼かくしを取つてみると元の所に居た、といふ譯だ。翌日は人間の不信を憤慨してストライキでもするかと思ふと相變らずぐる〳〵廻つてゐる。更に舟が進むと墓地がある、叢の中の新らしい土饅頭の前で若い婦人が哀號々々を叫んでゐる、親を失なつた娘か、夫を失なつた未亡人かは知らぬが、その哀哭は悲しい追悼の叫びといふよりは夏日草蔭の鼻唄のやうに聞えた。大きなピンセットを鳴らして來る者がある、行商床屋である、支那には理髮店を開いてゐるブル的床屋の外に、街路を流して歩くプロ的床屋があるのだ、お客があれば道の傍ら野天の下で剃刀をつかつてゐる、ピンセットを鳴らすのは日本の豆腐屋が喇叭を吹くのと同じ事だ。豆太鼓を鳴らして來るのは呉服の行商人だ。岸の上に布莊の看板が見える。酒局の招牌が見える。貨棧の立札が見える。

× × ×

南開學校は時間の都合で大學部だけ見た。大きな建物が二棟、一は袁世凱の父の第二夫人の寄附金三十萬圓で建てたもので、その名を採つて思源

堂と名け、他は李順の寄附金五十萬圓で建てたもので、その名を採つて秀山堂と名けてゐる。李順が不淨の財を以て巨富を成したのを見込むだ南開學校當局が「貴下の不淨の財を我輩に渡せ、我輩が淸淨化して使つてやらう」と五十萬圓だけ捲き上げたのだそうだ。大學と言つた所で要するにわが高等學校程度のもので、理科の實驗室などわが中學校のやうな氣がした。建物は相當立派で圖書閲覽室も廣いが、その閲覽室の壁間に小幡公使等の外交談判の寫眞が掲げてある、寫眞は既にわれ〳〵が當時日本の新聞で見古したものだが、その傍らの文句が僕の眼をひいた、曰く

中華民國四年五月九日
日人强迫我國承認二十一條

他の說明を必要とせぬ、この寫眞一枚が最も雄辯にこの學校の對日感情を物語つてゐる。事に當つて感情が爆發すると、その鋒先が第一に向けられるのはお隣りの中日學院である。今ピンセットや豆太鼓が通つた堤の上や、三不管が脂粉を流した運河の上を、旗を押立て、舳艫相銜んで、水陸の同勢喚聲をあげてヒタ押に押寄せて來るそうである。敵は二千名、味方は二百名、衆寡の差迚も喧嘩にはならぬ、然も敵は校舍が二ヶ所にあるのだから包み擊ちにする。それでは中日學院の生徒が怖氣をふるつて退學するかと思ふと決して心配したことは無いもので、十五年度の如き二十五名の募集に對して應募者六十名、遠く福建省から笈を負ふて來るのがあるそうだ、南開學校がハイカラで、寄宿舍も洋食本位、月に百圓位は費ふに對し、中日學院が質實で、寄宿舍も支那食本位、月に四十圓位で濟ますのも、父兄に喜ばれる一の原因だと聞いた。

× × ×

天津は大小政治家の巢窟だ、支那の權力の及ばぬ各租界のみが彼等を安全に保護して呉れるからである。一朝兵亂が起らんか生命財產の安全を希ふ人達は潮の如く各租界へ逃げ込んで來る。それでゐて法權回收などと口幅つたいことを言ふて居るのだが、こに角一度政府要路に立つた人ばかりでも、現に天津に六十名居るといふ。日本租界には宣統廢帝がゐる、英租界には黎大總統がゐる、（黎元洪氏はまだ任期が八十三日殘つてゐる、と言つてゐる、それでなくとも、支那では最後の官名を生涯稱するのが習慣だから、宴會などでは依然として黎大總統といふさうだ）段執政もゐる、誰もゐる、かれもゐる。宣統廢帝の邸は、隣りの呉光新氏の邸に比して貧弱だが、それでも家賃は年三萬圓ほど出して居るといふから僕の家なんかより大分大きいだけは事實だ。黎元洪氏の邸は勿論氏自身のもので立派なものだ、家の中に千人程も入れ得る舞臺まである、そこで僕も黎氏と會つて更に令息と茶を飲んだり、庭園を散步したりした。黎氏の長男は日本の學習院を出て、現に南開大學に在學中だ。問題は茲だ、その長男氏は眉目淸秀の貴公子だが、頻りに日本留學中の事を話題にして、日支親善を說き、南開大學に在學することはコレッぱかしも口にしなかつた。第二世黎元洪の外交ぶりよりも、僕をして考へさせたのは、日本の學習院と、米國系統の南開學校との使ひ分けである。親父の發意か、息子の自由意思か、それは問題でない。黎氏親子の行動が、その儘現下支那の反映であるやうに思はれる點、それが問題である。

（大正十五年十二月十五日發行、立命館學誌第百號所載）

支那の宗教

◇——◇

朝鮮では僧侶は賤民である。文官を龍班、武官を虎班、合せて「兩班（ヤンバン）」といふことは誰も知つてゐる。有閑學者階級を「中人」商工階級を「常民」といふに對して、僧侶は巫女、俳優、賣笑婦、白丁などゝ共に賤民とされる。勿論現在表向きにそんな區別がある筈はないが、因襲の久しき容易に差別觀念が消えず、今なほ陋習は續けられて朝鮮の僧侶の地位は虐めなものらしい。

◇——◇

僕が釜山に上陸したのは八月十三日だつた。龍頭山公園の麓、六根色の旗が朝風にハタメイてゐた。懐しさに飛こんでみたら淨土宗の寺だつた、彼方の山腹に飜へるは臨濟宗の寺だとのことだつた、内地人のお盆だからである。鮮人は舊曆の八月十五日にお盆をするが、在鮮内地人は新曆の八月十五日にお盆をするのだと聞いた。京城にも大きな伽藍があつたが、いづれも内地人のための、内地系の寺で、鮮人の寺は多く山林佛教、逃避佛教、全く出家の生活をするものらしく見える。平壤に着いた日は丁度十六日、精靈送りで大同江が賑やかだつたが、これも内地人が主として行ふやうだつた。朝鮮の佛教が民衆と没交渉になり、僧侶は乞食並に卑められ、教化どころか一般人と齢し得ぬやうになつたのは、全く李朝の儒教偏重、佛教壓迫の結果である。隨て僧侶の李朝に對する怨みは隨分深刻なものだと僕の眼には見えた「聖德太子や明治大帝の御爲めにならば寺の財産を擧げて御法要を營まう、併し李太王殿下のおために追悼法要を營まうとは思はぬ」と某鮮人僧侶は僕に話した。

◇——◇

朝鮮總督府大正十三年發行の朝鮮要覽によると朝鮮在來の寺刹千二百六十一、僧尼七千二百十五人。内地寺院七十三、布教所二百六十三。朝鮮寺院の信者數は明でないが、内地寺院の信徒は、十六萬四千九百十八人（その中鮮人信徒は、一萬七千八百九十七人）。基督教は、學校、病院等を設けて、頗る活潑で、布教所三千五百六十、信徒三十七萬二千九百二十人に上る。

その他天道教（信徒三十萬といひ、教主は代々擾亂の張本人）や晋天教などがあるが、實勢力は宣傳ほどでもないらしい。

◇——◇

滿洲に入ると高勾麗（かうくり）が滿洲を席捲した時代の遺物である山巓の狼烟臺（のろしだい）と共に、チョイ〳〵ラマ教の塔をみた。清朝が鴨綠江の沿岸から起つて最初に都を奠（さだ）めた遼陽にもラマ塔がある、伽藍は跡方もなく、周圍は今公園になつてゐるが、塔は十三段で高く中空に聳え、周圍の外壁には天女や佛像が浮かせてある。清朝第二次の都である奉天には、城北と、日本兵營の北とにラマ塔がある、城北にあるのを東塔といひ日本兵營の北にあるのを西塔と呼んでゐる。

◇——◇

西塔の門前には朝鮮料理屋軒を並べ、鮮人笑婦が行人に媚を送つてゐるし、道一重西は柳町といふ内地人の遊廓である。或る朝そのラマ寺へ參詣してみた、塔は多寶塔型で立派だがお堂の入口がわからぬ、それ程お粗末である、迂つかり門を這

入ると民家だつたりするので、塀の外を二三遍廻つて、五六度も人間の糞を踏んで、近所の人にヂロ〳〵と見られて、結局鮮人の笑婦女史に教へて貰つてお堂の入口をみつけた。流暢な日本語で教へられて笑婦と雖も同胞は有難いと思つた。お堂では晨朝の勤行の最中で釋尊像の前に三人づゝ兩側に並んで坐り、年長者程佛壇に近く坐を占めて鈷や太鼓を時々叩いて、怪しけな參詣者を横目で見ながら誦經してゐる、別に中年の僧が一人、唱和しながらお堂の周圍をグル〳〵廻つてゐた、堂といつても凡そ五間四方、外に二三の伽藍、佛前の飾りはわが國の一般佛教と大差なく、只汚いだけ、堂前は草が茂つてゐた。

◇——◇

清朝が第三次の都とした北京には有名なラマ寺卽雍和宮がある。雍和宮の門の脇には今も彭親王が住んでゐる程で、昭泰門、僧寮、鐘樓、鼓樓、

雍和門、の外、天王殿、溫度孫殿、雍和宮、額木奇殿、永佑殿、東配殿、法輪殿、照佛樓、萬福閣、綏成殿、雅木得克樓、武聖殿、菩薩殿、西配殿、札寧阿殿、參呢特殿など五色の、伽藍無數、僧侶三百、その中には一本の大栴檀で刻んだといふ高さ六丈ほどの大佛もあるし、蒙古語のマーニホルロ卽轉輪もあるし、隨分廣大なるのである。元來北京には喇嘛廟が、雍和宮、黃寺、黑寺、隆福寺、護國寺と五つあるが、雍和宮は雍正帝が登位前の邸宅を、喇嘛懷柔のため寄進したもので、その結構壯大群を拔いてゐる。然し今は只精神の拔けた形骸を殘すばかり、僧侶は參詣者に、經文や香木や猥雜な繪葉書を隨分非道い懸値で賣付けたり、酒をのんだり、虱をとつたりしてゐる。特に茲で有名なのは猥佛だ。歡喜佛とか、和合佛とか、陰陽佛とか、天地佛とか言つてゐるが、兎に角奇怪醜陋、婦女子を伴なつてはその前に立ち得ぬ佛體が十體ほどある。暗夜閨帳の中にもなほ羞づべき行爲を、堂々と佛樣が佛壇の上で、燈明をあげさせ、衆人禮拜の前でしてゐるのである。これ程の珍物を慾の皮のツツ張つたラマ僧がロハで見せる筈なく、無論高い拜觀料？をとつてゐる。

◇——◇

大連の滿鐵本社の前に道教の廟がある。一間四方ほどの小さなものだが、小奇麗に供物が澤山竝べてあつた。前の廣場には赤い旗が蜘蛛手に張り渡され、その赤旗の一ツ毎に「有求必應」と墨で大書してある。願をかけて望の叶つた時、禮詣りにこの旗を一ツ宛献げるのださうで、近頃日本人の信者が大分できたといふことだ。兎も角本質を忘れた宗教の殘骸が到る處に横はつてゐるかの樣に思へて、哀感をそゝられたことである。

◇——◇

支那の宗教界を綜覽すれば、儒教は道德律とみるべく、宗教として全國に普及してゐるのは、道教が第一位で約二億、佛教（ラマ教を含むこと勿論）が第二位で約一億である。回教も全國に散在し、殊に甘肅、新疆、陝西、直隸、雲南等に多く教徒の數約一千萬と推測されるが、信仰の熱烈な點で、實際の數以上の强味があるといふ。基督教徒は、舊教二百二十萬、新教六十萬、ロシア教五千。河南の開封方面には猶太教徒もあり、高原地方の原始人の間には、なほ自然崇拜が行はれてゐる。

（大正十五年九月二十日、大正新報所載）

『既刊』

貧と戀

（宇佐見兼丸文集第一卷）

一、凸坊日記
二、貧と戀
三、慕邊の懐出
四、若妻と醫師
五、琵琶湖心中物語

『近刊』

（宇佐見兼丸文集第二卷）

虐げられたもの

一、虐げられたもの

上、子
（大正十一年四月四日、京都日出新聞所載）

中、國民
（大正十一年四月十七日、京都日出新聞所載）

下、妻
（大正十一年四月二十四日、京都日出新聞所載）

二、産兒制限

乾、産兒制限小論
（大正十一年三月二十二日、京都日出新聞所載）

坤、産兒制限村を訪ふの記
（大正十三年一月二日、大阪朝日新聞所載）

三、尼僧蓄髮論
（昭和二年二月十二日、大阪朝日新聞所載）

四、相續稅改正論

五、經濟界に於ける銀行業者の責務

六、國民經濟と海運との關係を論じて
わが國海運政策の將來に及ぶ

七、その他小論數篇

『近刊』

わらぢのあと

（宇佐見兼丸文集第三卷）

一、朝鮮の旅

二、山　二　篇

A、　日本アルプスの銀座通

（大正十三年八月十一日から、同十六日に亘り、大阪朝日新聞に連載）

B、　鬼を訪ねて大峯山に奥駈するの記

（大正十四年八月十五日から、同二十五日に亘り、大阪朝日新聞に。また、大正十四年十一月一日發行「修驗」第十五號に掲載）

三、嶋　二　篇

その一、　佐　渡　行

（大正十四年六月二十九日から、同七月四日に亘り、大阪朝日新聞連載）

その二、　隱　岐　行

（大正十三年六月九日から、同十一日に亘り、大阪朝日新聞連載）

四、時間的な京都見物

（大正十二年二月十一日から、同二十一日に亘り、京都日出新聞連載）

五、金比羅から嚴島、錦帶橋まで

（大正十二年一月十二日から、同二十日に亘り、京都日出新聞連載）

六、震　災　二　篇

い、　關東震災のあと

（大正十二年十月二十六日と、同二十八日、大阪朝日新聞所載）

ろ、　但馬震災鳥瞰記

（大正十四年六月二日、大阪朝日新聞所載）

373
838

昭和十年十二月廿五日發行
昭和十年十二月廿五日印刷

定價金壹圓

著作者　學研國語教科書
大日本學研國語教科書
東京市麻布區霞町十番地

發行者　株式會社
代表者出版部長大久保
東京市麻布區霞町十番地

印刷者　大日本印刷株式會社
代表者三浦保次郎
東京市麻布區霞町十番地

313
838

昭和二年七月十七日印刷
昭和二年七月廿一日發行

非賣品

著作者　京都市東山通七條上ル
妙法院前側町四二六
宇佐見兼丸

印刷所　京都市御幸町御池南入
井手印刷社

發行者　京都市東山通七條上ル
宇佐見兼丸